

## ◆検討の概要と課題

### 公園の概要

【所在】札幌市中央区大通西 1～12丁目【面積】78,901㎡【種別】特殊公園  
【変遷】1871年 開拓使により火防線等を目的に道路を整備  
1911年 西 3～7 丁目において本格的な公園整備  
1950年 さっぽろ雪まつり初開催  
1968年 札幌市創建百年記念事業として西 1・2 丁目を公園化、西 4 丁目などで噴水を整備  
1980年 都市公園法を適用して大通公園として告示  
1989年 大通公園リフレッシュ事業により再整備(～1994年完成)



### 課題

大通公園は、年間を通して多くの市民や観光客が訪れる、札幌を代表する公園のひとつであり、都心の魅力向上に向け、周辺のまちとの連携や老朽化した施設の更新が必要である。

また、時代の変化とともに、スケートボード、喫煙、自転車、イベント開催に伴い一般の公園利用に支障が生じるなど、新たな課題が生じている。



### 公園周辺のまちづくり

北海道新幹線札幌延伸の動きをはじめ、大通公園周辺でも建物の更新が活発化している。

また、公園施策を取り巻く環境についても、既存ストックの効果を一層高めるため、民間との連携加速や地域ニーズに対応した使い方など、より柔軟な発想で運用していくことが求められている。



大通西 4 南再開発 (イメージ) 北 5 西 1・西 2 再開発 (イメージ)  
出典：大通西 4 丁目南地区市街地再開発準備組合

## ◆昨年度検討のテーマ

### 第 1 回

### 大通公園の魅力と機能の向上

○従来からの役割の継承・強化と新たな可能性の検討  
○大通公園の回遊性の向上に向けた議論と検討

○老朽化に対応した大通公園の再整備の検討  
○民間事業者と連携した公園整備手法の検討



### 第 2 回

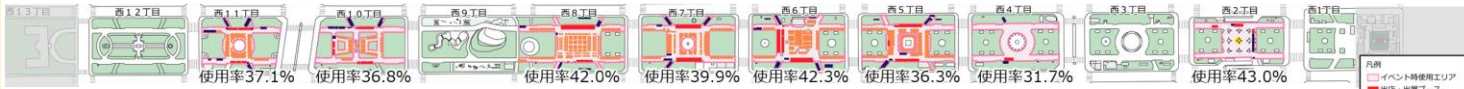
### 「いこい」と「にぎわい」の両立

○日常利用とイベント利用の使い分け  
○エリアごとの特徴を活かした公園の利活用

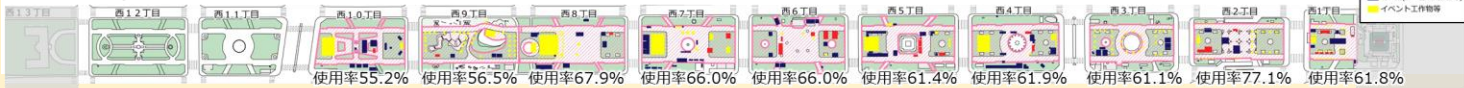
○公園の憩い機能を発揮する公園敷地内外の空間形成  
○多様な園内利用の検討と実現に向けた仕組みづくり

イベント時の占用レイアウトと会場レイアウト (2022年度)

さっぽろ雪まつり



さっぽろ雪まつり



### 第 3 回

### 沿道と連携したみどりの軸の強化

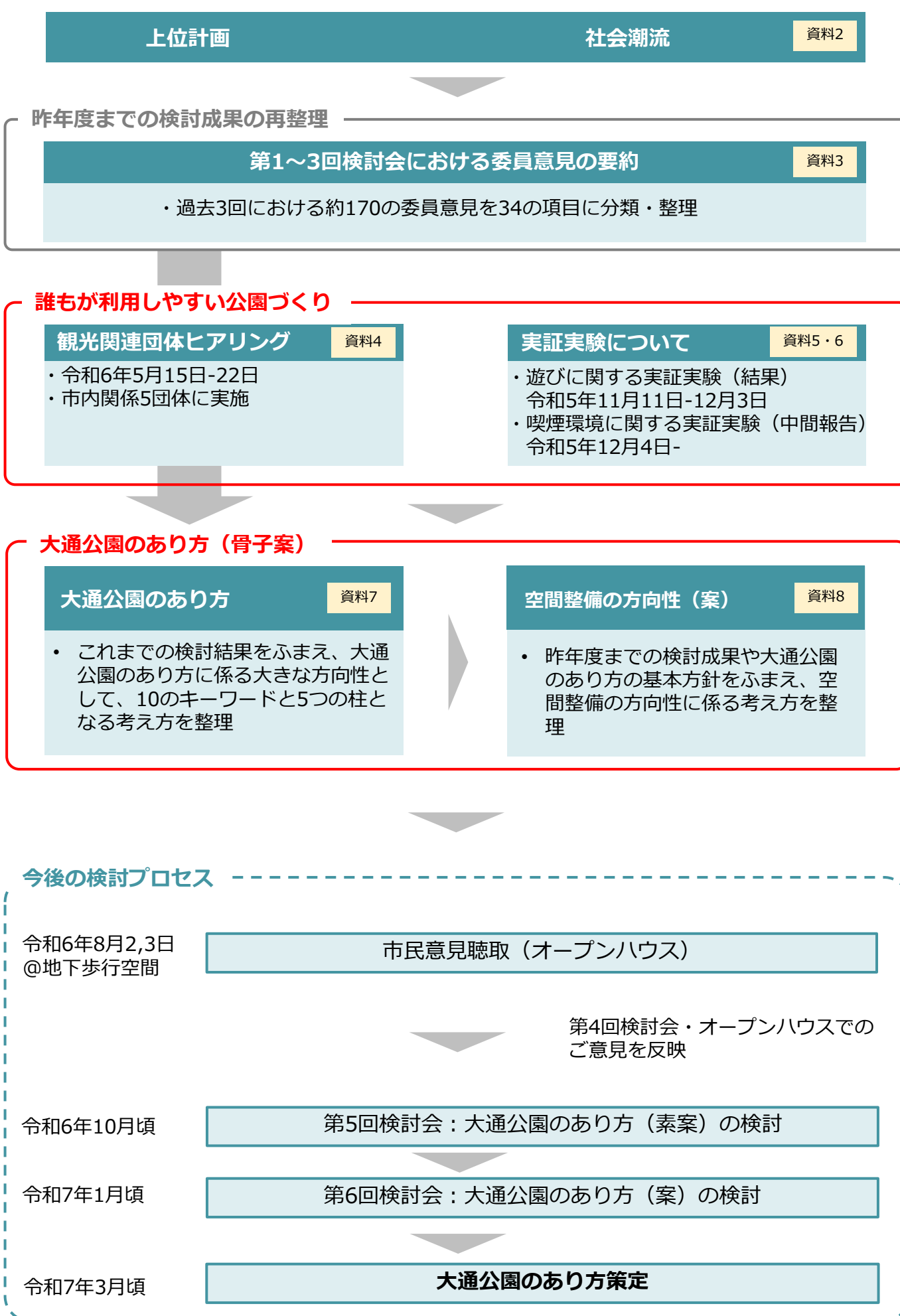
○公園と沿道が連携したにぎわいの空間の創出  
○公園～道路～民間敷地が一体となったみどり空間の創出

○公園敷地と隣接した歩道部分の活用  
○地下鉄などからのアクセス性を高める地下空間との連携



## ◆今年度の検討の流れ

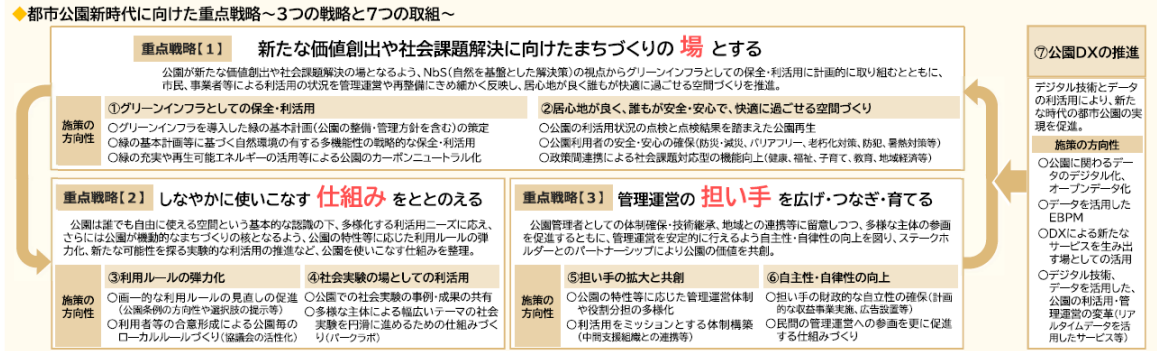
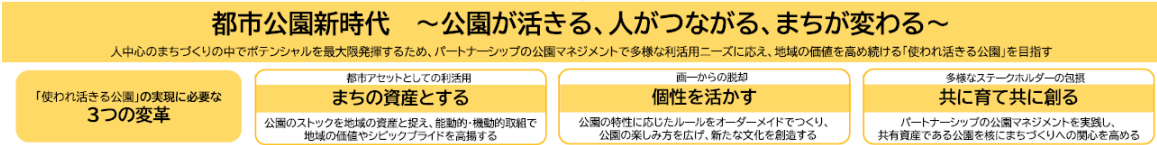
今回検討会のテーマ



◆都市公園に関する近年の国の施策

- ①都市公園の柔軟な管理運営のあり方（国土交通省）
- 国土交通省では、民との連携による、より柔軟に都市公園を使いこなすための質の高い管理運営のあり方等について議論・検討を行い、提言をまとめた。

| 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言(概要)                      |                                        |                                                      |                                                           |
|----------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 都市公園制度誕生150年目のパラダイムシフト ～人中心のまちづくり時代における都市公園の意義・役割～ |                                        |                                                      |                                                           |
|                                                    |                                        | <各時代の社会背景>                                           |                                                           |
| 明治6(1873)年                                         | 大政官布達                                  | 都市公園制度の始まり                                           | 名園・旧邸等の都市景観の地を市民の憩いの場として国民に開放。その後、震災時の避難地・防災拠点等として公園整備が進展 |
| 昭和30年代～                                            | 都市公園法制定(531)、都市公園等整備緊急措置法制定(547)       | 都市公園制度の確立                                            | 高度経済成長、人口の急増、都市の拡大と適応化                                    |
| 平成28(2016)年                                        | 『新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会』最終報告書 | 都市公園の新たな役割                                           | 人口減少・高齢化、都市の縮小と適応化、人口減少・高齢化、都市の縮小と適応化、人口減少・高齢化、都市の縮小と適応化  |
| ポストコロナの時代における人中心のまちづくりへの機運の高まり                     |                                        | 地球環境問題の新たな潮流                                         |                                                           |
| 『居心地が良く歩きたくなる』まちづくりの取組の広がり                         |                                        | 人口減少、少子高齢化への対応                                       |                                                           |
| 新型コロナウイルス感染症拡大を終ったニューノーマル社会への対応                    |                                        | ～人とのつながり、市民生活の向上、市民生活の向上、市民生活の向上～                    |                                                           |
| ～人中心・市民生活の向上、市民生活の向上、市民生活の向上～                      |                                        | デジタル・トランスフォーメーションの進展                                 |                                                           |
| 新たな時代における都市公園の意義・役割                                |                                        | 個人と社会のWell-beingの向上に向け、地域の課題や公園の特性に応じ、ポテンシャルを更に発揮すべき |                                                           |
| ～公園本来の役割、多機能性、多様な可能性の再認識～                          |                                        | 持続可能な都市を支えるグリーンインフラ                                  |                                                           |
|                                                    |                                        | 心豊かな生活を支えるサードプレイス                                    |                                                           |
|                                                    |                                        | 人と人のリアルな交流、イノベーションを生み出す場                             |                                                           |
|                                                    |                                        | 社会課題解決に向けた活動実践の場                                     |                                                           |
|                                                    |                                        | 機動的なまちづくりの核                                          |                                                           |



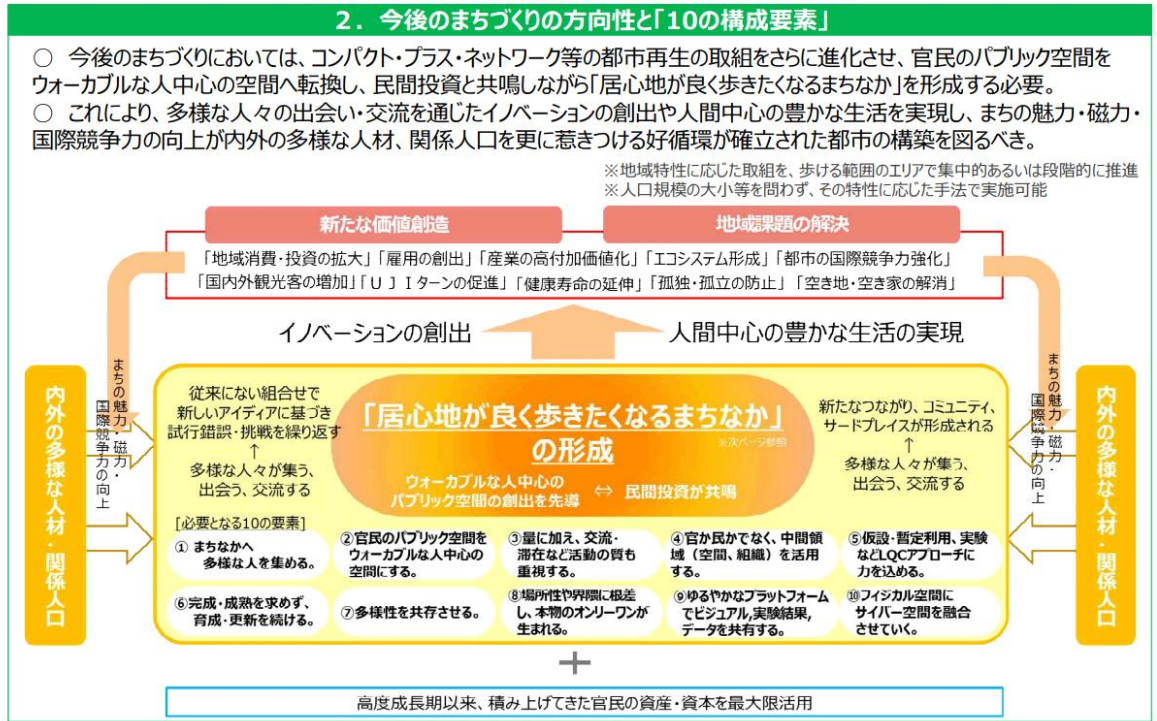
R4.10月 都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言資料抜粋

②居心地が良く歩きたくなるまちづくり（国土交通省）

- 国土交通省では、まちなかにおける交流・滞在空間の創出に向けた官民の取組に対して、法律・予算・税制のパッケージによる支援を行うことで、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを促進し、魅力的なまちづくりを推進している。

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～



R1.6月 国土交通省都市局「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」提言（概要）資料抜粋

◆大通公園に関連する行政施策（札幌市）

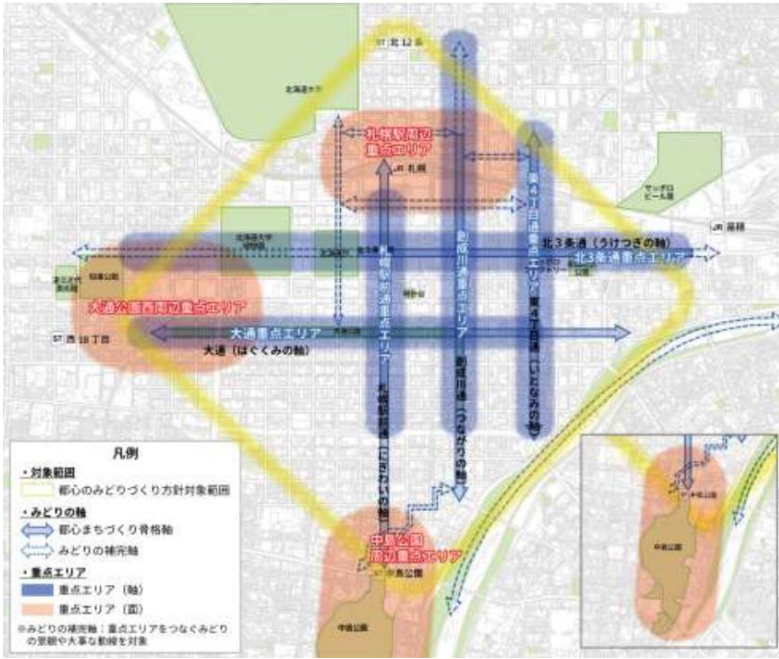
①第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）

- 札幌駅や大通と、その周辺における魅力・拠点性の向上
- 大通とその周辺では、札幌の象徴性を継承し、新たな都心の魅力と活力を育んでいくため、大通公園等の地域資源を生かした再開発の誘導・調整などを通じて公園・道路・建物を一体的に感じられる街並みを形成していくとともに、大通と創成川通の交点周辺における象徴的な空間の創出などを進めます。

②第4次札幌市みどりの基本計画

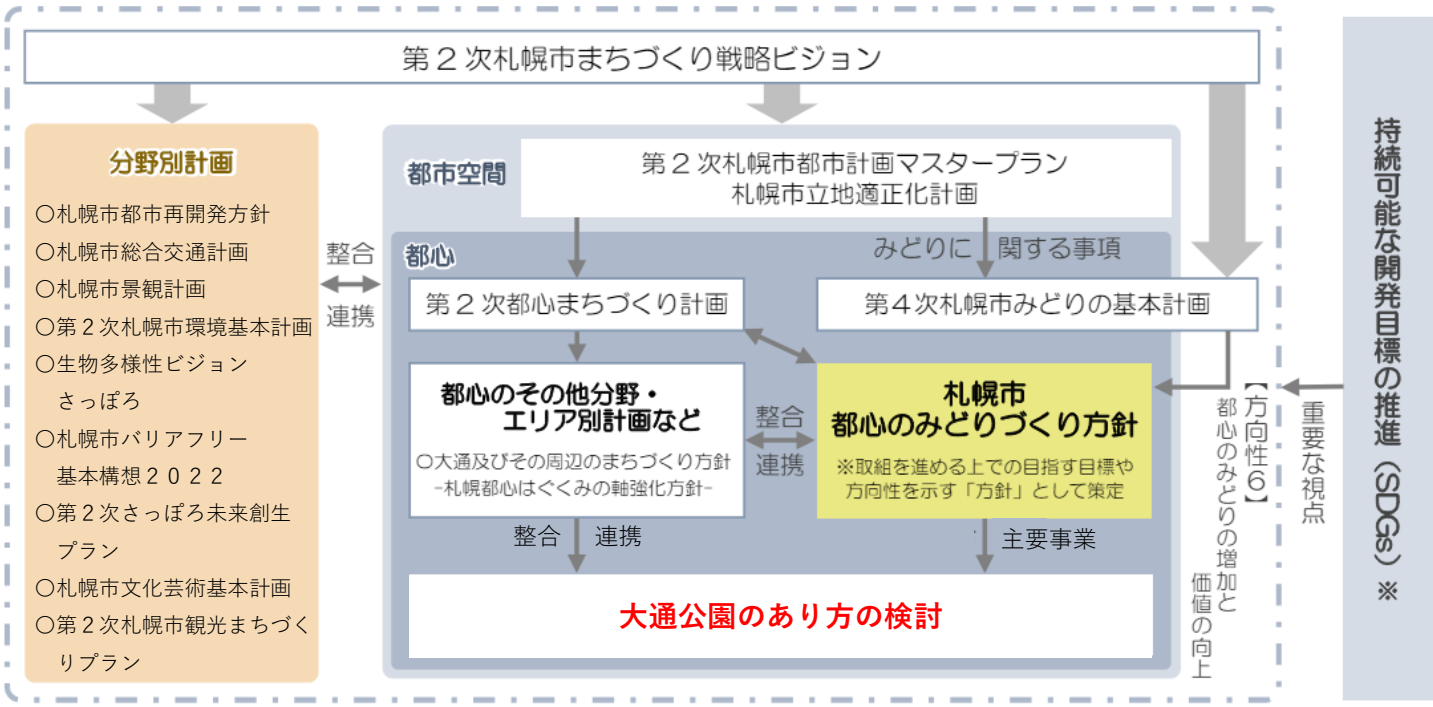
■みどりの将来像（都市）

- 大通公園や中島公園といった大きな公園やみどりのオープンスペースが、市民や来訪者の憩いや賑わいの交流拠点となり、札幌に活力をもたらしています。



R5.10月 札幌市都心のみどりづくり方針抜粋

◆本検討の位置づけ



◆過去3回における約170の委員意見を34の項目に分類・整理

|                     |                      |                            |                         |                                |                            |                        |                      |
|---------------------|----------------------|----------------------------|-------------------------|--------------------------------|----------------------------|------------------------|----------------------|
| 1)大通公園の位置づけ・方向性について | 5) 子どもの遊び場について       | 11) いこいとにぎわいの両立について        | 15) イベント企画・イベントのあり方について | 19) イベント運営のあり方について             | 22) 沿道開発との連携について           | 25) 創成側以东との連携について      | 29) 沿道との関係について       |
| 2) 公園デザインについて       | 6) 遊具の実証実験について       | 12) いこいとにぎわいの両立に向けた進め方について | 16) イベントの開催時間帯について      | 20) イベント実態の把握について              | 23) 沿道開発へのインセンティブについて      | 26) 時計台・札幌駅前通などの連携について | 30) 沿道との関係（南北方向）について |
| 3) 公園施設について         | 7) 喫煙について            | 13) 公園利用実態の把握について          | 17) イベント時期及び占有期間について    | 21) イベント時における道路の利活用・沿道との連携について | 24) 沿道開発との連携（緑化・公開空地等）について | 27) 地下空間との連携について       | 31) 沿道との関係（東西方向）について |
| 4) 樹木・みどりについて       | 8) 喫煙の実証実験について       | 14) 市民参加について               | 18) イベント開催ルールについて       |                                |                            | 28) 西13丁目（資料館敷地）について   | 32) 公園側歩道部について       |
|                     | 9) IT・DX活用について       |                            |                         |                                |                            |                        | 33) 移動手段について         |
|                     | 10) 調査手法（アンケート等）について |                            |                         |                                |                            |                        | 34) その他              |

1) 大通公園の位置づけ・方向性について

- 細長い形の公園であり、**各区画で公園周辺の土地利用や都市計画上の位置づけが異なる**ため、それも考慮し使われ方や位置づけを考えなくてはいけない。
- 空間利用、マネジメントについて、**大通公園の位置づけや方向性が重要**。ゾーニングを細かく区切ることで様々なニーズに応えているが、一方で小さな公園の集まりのように見えてしまう恐れもある。しかし、**札幌を象徴するセントラルパークでもある**ため、二項対立ではあるが、どちらの方針で検討するのか決めていく必要がある。
- 都市自体のあり方も変化している。従来の経済的な合理性だけを求める場ではなくなってきている。**普段使いと都心に求められる機能の両立が重要**。
- 位置づけの方向性は、札幌スタイルとして必要な公園。それが、オーバーツーリズムを促すのか、市民の生活の質を高める公園として魅力高めめるのが良いのか。
- 公園だけでは考えられない。都心に関する他の計画と連動させ、総合的な観点から見たときの大通公園の位置づけを考えるべき。各計画で考えている範囲も異なるので、都心まちづくり推進室の方々も含め、**公園の範疇を超えて考えるのは絶対条件**。
- 大通公園の領域展開が必要**。道路の多目的利用も国土交通省が進めている。
- 大通公園の都心の中での位置づけが重要。例えばトリップアドバイザーで札幌のメインストリートと検索すると大通公園が出てくる。これは間違いではなく北海道らしくて面白いと。都市の中にみどりがあり、それが一つのメインストリートとして認知されるのはとても大切なこと。
- 最初は火防線でバッファーゾーンだったかもしれないが、今や札幌を代表する一つの地区であり、そこに都市が展開している。それが**シビックプライドを醸成し、さらに都市や地域としてのブランディングを進めることに繋がっていくという位置づけ**ができればよい。
- 開発が進む一方で老朽化も進行しており、ここで活動している投資の総量はあまり増えていない。ある意味共食い状態で、都市の中で無駄な争いをしているので、もう少し大きな構想の中で大通公園を位置づけていくことが重要。
- 無理にニーズを詰め込まないことが重要。**沿道、札幌駅前通、北三条広場も含めた空間利用**を考え、大通公園のあり方を決めたらうで、それ以上は受け入れないという方針も重要。
- 多様化するニーズへ柔軟に対応できるもの**を、民間事業者との連携や周辺のまちづくりの話も見越して考えるべき。親しまれアクセスしやすい拠点になればよい。

2) 公園デザインについて

- ゾーニングの検討にあたっては、街区（施設）ごとにデザインが異なっている部分があるため、現状のデザインに対しての評価をしておかないと、次にどうやって整備していくのかということに繋がりにくいのではないかと。
- 観光客がSNSで写真を発信しているが、**丁目ごとに違いや特徴があると良い**。
- 歴史的なことも考えると、3丁目～7丁目までを長岡安平が描いた絵があり、**区画ごとに歴史的な経緯も異なるので、それをどう継承するかも大事**。
- 道銀の再開発で整備するという話があったが、区画ごとに異なる事業者が入ると、公園全体で整備のガイドラインを作っても、他との連続性が保てなくなる可能性が高い。

3) 公園施設について

- 水の施設は市民の方々の親しみもあり、ある程度必要だが、現状を維持していくべきかは検討が必要**。
- 水を使う施設は、環境やコストも考慮すると、可能な限り現代の技術を用いて**省エネルギーの効率的なものへの変換が必要**。
- 暑さも増してくるため、水遊び場の需要が増えていくことも考えられる。
- 大通公園の噴水は、水溜まりのある旧式のものが多い。広場に噴水をつくる際、水溜まりがあると占有してしまい、広場としての機能が低下するため、全面平らで地面から直接水が吹き上がるようなデザインが出てきている。現在のものが市民に慕われており、景観の重要な要素であれば遺していく必要はあるが、場所によってデザインの方向性や街区の位置づけに即した形で改善するのも良い。
- 銅像や碑の維持もお金はかかる。撤去に際しては議論を呼ぶと思うが必要に応じて考えていくべき。
- ブラックスライドライトの元々道路だった位置に立つと、南北の軸線がとてもきれいに見えてイサムノグチの意図を感じた。イサムノグチの当時の想いが資料に残っていれば、それを調べて今回使えるものがあれば良い。

4) 樹木・みどりについて

- 樹木は30年前から本数は変わらないまま、非常に大きくなっているため過密状態。しかしマスコミを気にして木を切るということに踏み切れない状況。木を切ると反対する人は必ずいるが、間引きが必要。**視点を明確に示して健全な緑を育成する**ということに思い切って踏み込んでほしい。
- 樹木の伐採はハードルが高いため、市民とコミュニケーションを段階的に行っていくことが重要。
- 樹木は、高密度、老朽化、大木化のリスクを示す必要がある。その上で、**景観的な部分、沿道との連携も含めて議論を行ってきたい**。
- 木の伐採について。地下歩行空間ができる前の札幌駅前通や創成川公園は木が鬱蒼としていた。逆に木がなくなった方がすっきりして良いというのが市民の感想なのでは。伐採することに抵抗感を覚えるのではなく、なくなった方が良くなるという比較を見せるのも良い。
- 公園～道路～民間敷地が一体となったみどりの空間の創出について。間引きや伐採、撤去という言葉には慎重になるべき。積極的に緑を守りみどりの空間を大事にする、ということが市民に伝わるよう表現を工夫し、説明の機会を持つことが必要。
- P3みどり空間の創出について、考察にあるように適切な公園内の緑量を検討する必要はあるが、一方で中心部のみどりを伐採することには反対意見は多く、伐採に踏み込めないと想像する。しかし現状の植栽密度は高すぎる状況であり、倒木の危険が高い木から優先的に対応していく必要がある。それによって沿道からの見え方も変わっていくと思う。現状だと遮蔽植栽のようで、みどりの眺めは良いが、行ってみたいという気持ちは起きにくい。**本来想定していた沿道との一体感が逆に分断要素になっている側面**がある。まずは間引き、中木くらいのものをある程度除伐し、外側からの視線が通るようにするなど、工夫が必要がある。
- 全体的なテーマについて、緑といっても多様な機能があり、大通公園一括りで語るのは難しいかもしれないが、みどりのどんな機能に着目して軸の評価をするのか、という議論もあって面白い。雨水浸透の話もあったが、**グリーンインフラの機能を強化する植栽を増やすのか、にぎわい創出のために、どんなみどりの形態があった方が良いかなど、みどりに対してのアプローチや伸ばしていきたい機能という目線で議論があっても良い**。

5) 子どもの遊び場について

- 保育施設は西側に偏っているが、東側にもいくつかあり、テレビ塔や西2丁目あたりに遊ぶ場を希望する声もある。遊具施設の有り無しで西側に利用が集中し、東側が少ないということもあるため、そういった視点で東側の利便性を高めることもできるのでは。
- 都心の保育施設には外遊び環境は大事。**子供連れの利用を充実させる方向性**で検討してほしい。
- 西12丁目は花壇整備がされているが、市民の活動数は多くないイメージ。ここも保育所の子供や、近隣マンションの子育て世代も意識しながら再整備していくと良い。
- 今後、大人だけではなく子供たちの意見をワークショップ形式で集めるのも良い。
- 桑園小学校での調査で、校区内に街区公園しかないため、大通公園まで遊びに行っている子供が多いことが分かった。アンケートではわからないことだが、考慮した方が良い。
- 都市デザイン的な観点では、9丁目の遊具のように、**景観としても素晴らしい両義性をもってデザインする必要がある**。

6) 遊具の実証実験について

- 3歳未満の子どもはかけこをして遊ぶことも結構あるため、実証実験は遊具だけでなく、3歳未満向けの遊具以外の遊びの要素もあると効果が高まる。
- 実証実験は平日の夕方等、近隣住民が子供を連れ出すような時間帯も含めて、色々な可能性を探ってほしい。
- 西10、11丁目の間は交通量が減少しており、保育施設がよく利用するエリア。実証実験では遊具を置くだけでなく、そこを一体化することで遊びや景観、回遊性の向上につなげることも考えられる。実証実験のアンケートについて、知っていて来た人が多いのか、普段から8、9丁目の遊具で遊んでおり、たまたま実験のことを知った人が多いのか、結果を教えてください。
- 遊具の実証実験は、期間中の利用者数だけでなく前後との違いも知りたい。子供との遊び方がわからない保護者もいるため、遊具が欲しいという意見が出ている。遊具は、子供が一時的に遊ぶが飽きるもの。子供と大人の遊び方を学ぶ機会があれば遊具を各所につくる必要はなくなるので、見極めが大事。
- 遊びの実証実験は、もう少し都心近くなど、場所も変えて実施するとより効果が見える。

7) 喫煙について

- 分煙について、子供たちが遊ぶ大通公園で喫煙者が多いのは良くない。公園内を禁煙にし、周辺ビルにクローズドな喫煙所をつくるべきではないか。
- 今回の受動喫煙対策としての実証実験は、吸煙装置はなく青空喫煙所。個々が吸うのと集まって吸うのでは影響が異なり、青空喫煙所は煙が集まってしまい却って良くない。最終的には密閉された喫煙所を作るべき。
- 5丁目以降は禁煙対象区域ではないが、子供の遊び場もある。アメリカでは子供が遊んでいる公園で、喫煙や飲酒に罰金をとる州も多い。イベントでもルールはあるが、もう少し踏み込んでほしい。

8) 喫煙の実証実験について

- ・ 実証実験の検証には、喫煙所の利用状況に加え、周辺で喫煙がどの程度減少したかの測定も不可欠。
- ・ 喫煙の実証実験は批判の声もあるが、**受動喫煙の対策は必要**だと考える。

9) IT・DX活用について

- ・ **I Tやデジタルの活用**も入れると良い。
- ・ Wi-Fiは大通公園内に通じるのか。SNS利用者のためにも環境整備は大事。
- ・ DXについては、公園の利用測定のためにも技術の活用は必要。

10) 調査手法（アンケート等）について

- ・ 来園目的のアンケート結果は、回答者の属性も組み込み、観光客と市民を分けて考える必要がある。
- ・ イベントの時期か否かで利用目的は異なるので、これを見て散歩が多いと判断するのは間違っている。1年間のデータとしては数も少なく、置き型のアンケートデータが意味するものが分からない。
- ・ 観光施設調査の年間客数から概算し、ラフではあるが観光客と一般市民との分けはできないか。
- ・ データのとり方について、AIカメラで人数カウントし、性別、年齢を検出するなど、技術は確立されているので活用すべき。世界的にも公園のカメラ設置は当たり前で、防犯要素もある。しかし、聞こえは簡単だが同時にものすごいハードルがあることも承知している。
- ・ 一般的にオーバーツーリズムへの対策の一つは目的地の分散化。KDDIのデータから、大通では比較的市内での回遊が見られているが、国内のキャリアなので外国人は含まれないのが課題。クレジットカードのデータからの消費行動の分析や、コペンハーゲンでは定点観測した市民の幸福度数をもとに政策を評価・決定しているように、誰のための公園を考えるのか、データと運動して考えることも必要。
- ・ 日常利用とイベントは、課題と改善点を利用者の実態まで落とし込めていない印象。アンケートの回答も、実際に課題が生じている公園の状況まで思い浮かぶ意見ではない。アンケートの意見がどのような公園の状態に対してなされているものなのか整理が必要。
- ・ **リニューアルは誰のためなのか**、顔が見える形でターゲットを絞ってデータを揃えると良い。各ニーズを踏まえた上で、バランスを見て取組むと良い。

11) いこいとにぎわいの両立について

- ・ 公園が細切れになっている中で、**普段使いと街の中心としての機能を、どう果たすか**は非常に大きな問題。
- ・ イベント時は販売行為がメインである一方、通常時は厳密に禁じている。そのギャップが大きく、考えるべきテーマの一つ。
- ・ 憩いと賑わいの両立を考えるには、**大通公園の位置づけを明確にすべき**。
- ・ 前回遊具の両義性の話をしたが、**公園の使い方でも両義性が出てくる**。「いこい」と「にぎわい」は抽象的なので、具体的に何と何を両立させるために議論するのか。また、同じ割合が片方に重心を置いて両立するのも考える必要がある。
- ・ 現状は憩いと賑わいの凌ぎ合いになっているが、私としては相克ではなく、憩いを優先しつつ両立させたい。賑わいというのは、公園の領域に都市活動がはみ出してきている状態だと捉える。
- ・ **札幌の都心の発展に必要なのはセレンディビティ**。行政、オフィス、商業機能はあるが、その中で**多様な人がいかに滞留して出会いの場をつくり、交流するかが重要である**。現在、オフィスビルや商業ビル、マンションの建設が増加している。しかし、その実態は非居住が増加し都心居住が鈍り、長時間にわたり都心に滞留し、多様な活動をする人が増えているとは言い難い。**街のセレンディビティ性への期待が薄まっている**。そんな状況にもかかわらず、大通公園内に商業空間をつくるべきか。現状、大半のイベントは観光客を喜ばせるものになっており、それも重要だが、公園の中だけで行うかは、都心全体で検討し優先順位をつけるべき。公園ではあるが広場のような使い方になっている。公園というのは、市民に即した使われ方をベースに維持管理されている空間だが、広場とは非日常的なイベントの場。目的が異なるのにそれを両立させるなら、その両立方法に焦点を向けるべき。
- ・ 散歩等はイベントとの両立が可能だが、子供の遊びだけは難しい。しかし、市民のいこいの場や子供たちの遊び場として、本当にイベントに悪意を持たれているのか。時間と場所だけの使用率がイベントといこいを左右しているわけではないと考えると、単にイベントを制限するのも違う。

12) いこいとにぎわいの両立に向けた進め方について

- ・ 都市公園の特性は様々なので、憩いと賑わいの両立についての全国的な共通解というものはなかなかない。地元が納得感を持って進めることが重要。
- ・ 大通公園をどのように位置づけていくのが重要。イベントを楽しみにしている市民は多く、憩いは他公園でカバーする考え方もあるが、市民の望みを丁寧に聞いていく必要がある。
- ・ 日常利用とイベント利用の折り合いは、全国的にも個々の公園で事情が違うので判断は難しい。プランの決定を急がず、試行や社会実験等、柔軟性を許容した取り組みの積み重ねが重要。

13) 公園利用実態の把握について

- ・ これまでのプレイスメイキングの結果や評価を共有するのも新たな可能性の議論に良いのでは。
- ・ 憩いはどの辺に住んでいる市民が対象か。憩いと賑わいについてイベントとの関係性を考えるには、来街者、勤務者、居住者を分けて考える必要がある。居住者は、イベントの賑わいを求めて公園周辺を選んでいる可能性もある。それを分析できるデータの整理が必要。
- ・ ダンス練習やスケートボードは憩いなのか。スケボーパークを設けたとして、人に見られたい承認欲求から人の多い場所でやっているの、実際に利用されるか、データをとる等考えるべき。
- ・ イベントの占有スペースは限定的でルールもあるが、日常利用が制限されているという意見がある状況。具体的に現地のどのような状態が問題視されているのか、共有すべき。

14) 市民参加について

- ・ 民間企業と連携することについては賛成だが、そのほかのボランティア団体は高齢化により、継承がうまくいかないことをよく目にする。今のやり方に関しては20年後を考えると、問題なく運営を受け継いでいけるのか。
- ・ 花のボランティアの育成で、札幌市内様々な場所で活動している人たちの横のネットワークを作り、情報交換や技術継承等を行ってきた。大通公園での活動に対する希望が強く、多くの人に見られる環境はやる気につながる。大通の活動レベルは高く新参者もあり、これから也十分期待できる。
- ・ 人に見られる場所で活動したいというのはアーバンスポーツとも共通する。従来のボランティア組織が問題を抱えている一方、若い人たちにも活動意欲はある。働き方、子育ての仕方に加えて情報のチャンネルも変わってきているので、それに合わせた情報提供や機会を作るとは継続していくべき。

15) イベント企画・イベントのあり方について

- ・ 公園の利用許可と利用者の双方に札幌市が絡み、許認可の中で利用が変化しているのが問題。経済的な波及効果のみを考えるようなイベントは公園にふさわしくなく、イベントのテーマに応じて許可することが必要。場合によってはマネジメント組織をつくってジャッジする必要がある。
- ・ 企業の名前ではなく、公園で提供する意味をもっと発信すべき。単純に広告物の規制ではなく、公園に相応しいものの提供や、**札幌らしいイベントづくり**につながるマネジメントをすべき。
- ・ 大きな名前のイベントだが、**外から来た人が見たいのは市民による使われ方**。イベントに、市民の関わりをいかに持っていかも重要。大々的なイベントだけでなく、学生やボランティアの参加など、**市民活動の場としてのイベント**も大事。
- ・ 市民の生活文化が如実に反映され、札幌でしか行っていないイベントや、大事にしてきた文化を外側に波及できるようなイベントであれば、市民の参加のハードルも下がり、みんなでつくっているイベントとなる。
- ・ イベント時のオーバークラウドについて。緑地を保護するために制限するのは当然だが、一部に人が集まりすぎている。例えば夏まつりは、新宿のビルの屋上のビアガーデンと変わらない混雑状況で、気持ちよくビールを飲むのではなく、イベントがあるから来ているだけ。屋外の、人が集まっていない場所で飲めるから気持ち良く、それが公園である意味なのでは。人を集めれば良いのではなく、札幌市民の公園として、イベントのやり方も決めるべき。
- ・ 例えばオータムフェストは改めて大通公園の札幌としての位置づけからの見直しが必要。最初は、道内の収穫祭として全道の自治体を巻き込んで開催されていた。しかし現在はテナント価格の上昇等により、全国レベルでイベントを行っている民間事業者しか入れず、札幌市民や北海道民を対象としたものではなくなっている。
- ・ 広場は行政活動が積極的に行える場ということだが、そういう場面が札幌には少ないので、大通公園を活用する可能性も考えられる。

16) イベントの開催時間帯について

- ・ 観光客と市民利用を両立するためには、午前中は市民向け、午後は観光客向け等のタイムゾーンの分割も考えられる。
- ・ 使用率は、実際にイベントの開始時間と他の時間で日常利用がどの程度許容できるかがわからない。イベント期間でも早朝の散歩が可能なら、その時間はイベントと日常利用が両立できていることになる。

17) イベント時期及び占有期間について

- ・ 占有の期間や割合は全てイベント側の視点。**日常利用側の視点で、どれだけ利用できる時間帯や空間があるか**という見方も必要。
- ・ 札幌は四季が明確なので、各シーズンで2～3週間イベントを禁止し、市民利用期間を設けるという両立方法が理想的。短期イベントと長期イベントを、区画を分けて並行開催すると利用が共存できる。
- ・ イベント開催時よりも前後の仮設・撤去期間が問題。期間も長く制限も多いので、最も阻害要因になっている。イベントそのものと分けて考えるべき。

18) イベント開催ルールについて

- ・ イベント会場と都心機能の両立にあたり、公園内の宣伝・広告などが常設化しないようなルールも必要。
- ・ 現状から考えられるルールの改善点を事務局から提示すると、具体的な議論につながる。ルールを見直す場合、これまで実際にイベントを実施してきた主体の意見も紹介すべき。
- ・ ルール設定は景観でも必要。広告物掲示へのルールはあるが、規制しきれていない実態。
- ・ ルールは誰に対するものか。市民かイベントの主催者か、分けた方が良い。

19) イベント運営のあり方について

- ・ イベント時に公園のキャパシティを考えて運営する必要もある。夏まつりの際、芝生を使わせていないのは芝生の植生を保護する観点からのキャパシティ。もう一つ、公園らしいイベントを維持するための、快適性としてのキャパシティを考えることも大事。
- ・ **マネジメントの問題も議論が必要**。誰がどのような方法で行うのか。名古屋の久屋大通公園のように、公園内に商業施設を作ることと費用を捻出するのは違う。公園内だけでなく道路もパークマネジメントの領域に入れて、イベント利用や保守管理を含めて費用を捻出していく方法もある。
- ・ PPPを導入し民間の力で維持管理や経営を行う仕組みに転換すべき。**多様な利用の展開ができるよう、民間・行政間の柔軟なコミュニケーションを可能にする仕組みづくりも大事**。
- ・ 現状では憩いが賑わいにかかなり圧迫されている。都市公園条例では、施設使用料は場所に関わらず一律だが、特例として大通公園の大規模イベント時は上乗せし、それを市民に還元するなど、条例の改正も必要。
- ・ イベントの事業者に対して、テントの建て方や運営も含め、普段使いにも配慮して企画運営しているところには、運営面でのインセンティブを与えるなど、公園の日常利用ユーザーにフレンドリーなイベント運営に対し、インセンティブを与えるという工夫もあって良い。物理的な変更をしなくても、にぎわいと日常使いの両立にも効果があるのでは。

20) イベント実態の把握について

- ・ 都心のみどりづくり方針の際にもイベントの占有度合の資料があったので、今回の検討会で情報提供いただき、イベントと日常利用の関係性の構築について議論していただきたい。
- ・ 各イベントが、市民と観光客どちらを集めているものか把握するべき。
- ・ イベントも非常に重要な役割なので、イベントを行う上でのトイレや駐輪といった問題点も踏まえて考えていく必要もある。イベントの実態をデータとして情報提供いただいて議論が必要。
- ・ イベント主催者からの、公園の現状に対する要望も整理が必要。両立のためには効率的なイベントの実施体制も考えるべき。

21) イベント時における道路の利活用・沿道との連携について

- ・ 個々のイベントで深堀すると、よさこいソーランでは南北の道路を封鎖し、道路もイベント空間となる。外側に観客席を設けているので、周辺街区への波及効果もある一方、同時に公園内では一般利用も可能になっている。このように二重に考えると道路側の協力が必要。
- ・ 大通公園西5丁目以降の植樹帯にある斜めの車道はイベント用で、日常利用されておらず公園のデザインとしてもったいない。駐輪がなくなると外側の歩道が使えるので、車両が入ってくる空間と両立できないか。
- ・ **イベント期間は沿道との一体感が失われている**。お店が内側に向き、外から見ると閉鎖された空間になっている。周辺も含めた賑わいの作り出し方が重要。
- ・ イベント時、お店は園内に向き、公園の中だけで完結する考え方が強い。憩いと賑わいの両立には、公園外との繋がりを作り、日常利用に配慮したイベントを条件にするなどの工夫も考えられる。

## 22) 沿道開発との連携について

- 沿道との連携については、公園の外側との関係の中でどういう計画論を差し込んでいくのかという話になる。再開発側で公園と連携すると言わない限り取組は生まれず、渋谷のアーバンコアはそれをやっている。前提として、そこまでの話をするのか、それとも公園という枠の中だけで議論するのか。
- 西3，4丁目では南北の街区と大通公園を一体的な形で取り込んで地区計画やまちづくりが検討されていると思うが、その辺の取組について、今後全体の議論でヒントになるポイントがあれば紹介しても良い。
- P2のにぎわい空間の創出について、課題の2つ目で公園と親和性の良い商業施設が少ないという指摘があるが逆も成り立つのでは。以前はカフェやお菓子屋が大通公園沿道にいくつかあったと思うが、いつの間になくなった。親和性のある商業施設が少ないのではなく、それが経済的に成り立たない、集客力が見込めずに閉めたお店もあるのでは。
- 老朽化について、記念物や、地区内の歩道と中央に花壇がある形態など、継承し守るべきものがある中での整備になるため、民間事業者との連携は重要。
- 再開発や地区計画のエリアをもう少し広げ、ハードだけでなく、マネジメントや運営に関しても、街区との連携が必要。

## 23) 沿道開発へのインセンティブについて

- 道路について、例えば札幌駅前通では、接続空間を民間側が作ればそれに対して容積ボーナスというインセンティブがあり、再開発のルールは決められている。だが、民間の主導する再開発は、必ずそれがないと動かない。**大通公園に隣接している敷地を再開発した場合、どういうメリットを公園側に与え、どんなキックバックがあるのか。**そこのルールを設けるのか設けないのかという議論が出てくる。単純に再開発側に利便性が高まるものをインセンティブにすると、公園側にメリットはない。では公園側のメリットは何か。
- P3に今後の開発計画が書かれているが、大通西4丁目の再開発とは異なり、ロイヤルパークキャンパスは公園側との連携ではなく、民間自らがたまたま公園に開いた。西4丁目は、大通公園の魅力向上を再開発が採り回るので何かしらのインセンティブを与えることになっている。民間とのパートナーの考え方は議論の対象として大きく入れる必要があると思うので、補足させて頂いた。
- インセンティブについて。西4丁目は、この絵だけ見ると良い取組。民間の事業の中で公共貢献してもらえるかだが、その緩和が高さを引き換えにしているのは負の要素でもあると個人的には思う。
- いかに民間企業側にインセンティブを持たせるかが大事。地下歩行空間に接続しているビルを建てたら建べい率を上げられる条例があるが、似た形で、喫煙所やトイレを設けるなど、大通公園の機能を補完するような機能を付けるところには、建べい率を上げられるような取組も良い。西4丁目においても、管理レベルを維持するためにお金も考えられ、今までなかった新しい管理方法を取り入れることもあり得る。
- 札幌はユニバーサルなまちづくりを戦略ビジョンでも位置付けているので、障がいの有無に関わらず使いやすいつくりにしたところにインセンティブを付けることも、案の一つとして大切。
- インセンティブまでがガイドラインになるのか分からないが、大通公園の議論を考えると、大通公園は札幌の中心であり、そこで民間の開発との関係の作り方には、特殊なルールが必要になる。大通公園に面しているところには配慮いただき、市からもインセンティブについては考える必要があるという気がした。時間的にも周りの開発行為は進んでいくので、それに合わせて大通公園をどう変えていくか。連携のあり方について具体的なイメージも頂いたので、整理いただき、この後の議論につなげてほしい。
- 札幌市が運用している民間事業者によるみどりの開発のインセンティブ策について、検討材料の一つとして出しても良い。事例で上げている大通西4丁目の再開発やホテルなどは、民間事業者の創意工夫だけで実現したものなのか、行政からインセンティブ的な仕掛けがあったのかなども、もしあれば整理すると良い。

## 24) 沿道開発との連携（緑化・公開空地等）について

- みどりの軸の強化を考慮すると、例えば民間側での屋上緑化や壁面緑化など、緑化に対してインセンティブを与え、さらに公園と接続することも条件に入れる。公園と接続した民地であれば、公園の緑地面積に編入させ、その代わりにボーナスとして何かを与えるなど。そういうアーバンデザイン上のルールが必要になってくる。
- もともとパブリックなエリアに対してどう貢献するか、管理費や整備の仕方などの問題があると思う。都心部の中の公開空地には、三角コーンを置いて民地化している場所も見受けられる。私物化されないよう、慎重に考えてほしい。緩和の引き換えにするのが容積だけでなく、他に事業者にメリットがあることを盛り込む必要がある。公園の周辺ならではのやり方を模索することも必要。
- P3緑の空間の創出。都市計画的な手法で民間開発の際に広場や公園緑地といった公開空地を作ってもらう仕組みもある。総合設計制度では、一定規模以上の開発時はどのくらいの広場をつくと容積ボーナスがあるという仕組みは全国にもある。例えば隣接する公園などのみどりと連続する形で公開空地を配置すると、容積ボーナスを計算する数値インセンティブを与えるというような方法を採用している自治体もある。
- 今回のテーマで考えると、みどりの軸の強化が、結果的に札幌の都心部の価値向上に繋がるのであれば、再開発や民間事業者の取組も巻き込んでいける。このタイミングに乗らなければ逆に損になるくらいの形が作っていけると良い。

## 25) 創成側以東との連携について

- 東側の大通から豊平川への延伸について、まちづくり方針で豊平川までを東ゾーンとして位置づけるのであれば、この検討会で一定の方針を立てておく必要がある。新しいビルが建った時に、方針があれば将来的ににぎわい空間にすることも可能。この東側の話も何らかの形でこの検討やまちづくり方針にも入れてほしい。
- 東側への延伸について、大通公園の連続性は是非議論いただきたい。札幌に泊まりに来るビジネスマンは朝ジョギングをするが、そのための連続的な道路がない。大通公園がもし東に延びて豊平川まで繋がり、堤防を走って中島公園まで行って戻れるような連続性のあるコースを作ると、国際的な面でも非常に良いまちづくりなのは。今の歩道よりもちゃんとしたコースを走らせるのが、札幌を訪れた方々にも良いイメージを持っていただけるのでは。
- 連続性の話が出ているが、すぐく可能性があると思う。創成川公園と大通公園は、本当は接しているのに、テレビ塔の下の一部の管理主体が違うのか。一体的に整備する案があったと思うが、創成川を越えた東側の一体化の前に、もう一度考えても良い。そうすると創成川、大通公園、中島公園もつながり、札幌市は都心部のみどりのネットワークを頑張っているというメッセージとなり、民間の方たちのインセンティブと兼ね合わせて、何かを取組むという方向性が今後議論できれば良い。
- 10数年前だが、創成川公園のデザイン検討をしていた時に、なぜ大通公園と接続できないのかという議論はあった。当時はテレビ塔の社長に言い出せる人がいなかったこともあるし、もともと西1丁目の東半分が道路敷地のままで、大通公園と直接つながっていないことが一番の問題であった。何とか迂回できないか様々な議論がされ、見苦しいものは片付けるなど、少しは改善された。少なくとも北側と南側を歩けるようになったが、それ以上はできなかった経緯がある。

## 26) 時計台・札幌駅前通等との連携について

- はぐくみの軸の強化方針のP6図。テレビ塔の東側は再考する余地があると思うが、時計台までのオープンスペースの創出についても、テレビ塔の教訓を生かして欲しい。大通公園へのダイレクトアクセスを考えも良いのでは。立体的に考えて、時計台から北大通を超えてダイレクトに公園へアクセスできるような動線を考えることもありかもしれない。空中で繋げるのも考えられる。新しい視点を公園ユーザーに提供して、それがテレビ塔を見せるもう一つの視点ポイントになる。それと公園がダイレクトに繋がっているのは魅力の一つになり得る。地下駐車場への入口の関係も出てくるが、考えて頂いても良いのでは。条件がテレビ塔の東側と似ている部分もあり、じっくり考えて欲しい。市でイニシアティブをとれるプロジェクトである気もするの
- で、それも見える形に検討してもらえると良い。
- 地下だけでなく空中を使うのは、東西の連結を図るという意味でも考えられる手段である。
- 札幌駅前通について**、地下の交流拠点や地区計画として定められているルールなどを切り離さずに**公園と一体的に見て**、方向性を議論していくことは欠かせない。
- 賑わいとは人が集まるから生まれるが、人が行きたい場所でないと生まれない**。まずは公園内の緑をより充実させ、イベントは道路でも行う、あるいは、にぎわいの軸となっている札幌駅前通や北三条広場も含めて、南北方向を繋げていくことは重要であり課題の一つでもある。

## 27) 地下空間との連携について

- 地下鉄などからのアクセス性を高める地下空間の連携について。渋谷の状況が掲載されているが、渋谷では目的の商業施設に向かって地下から上がるという利用の仕方をしており、利用しやすい。一方、大通公園の場合、目的地があるのではなく、ここを上がると地上のどこに出るのかイメージをしにくい
- ため、利用が進まない側面があるのでは。近隣の商業施設や再開発により、目的となるものが今後できると、地下と地上との行き来が活発になるのではないか。
- 地下空間との連携について。冬季は特に地下空間の利用が高まるので重要な視点だと思うが、公園に限らず地下から外に出ると方角がわかりにくくなる。**外に出たときの自分の位置が分かりやすくなるようなサインの設置や誘導**などを考えると良い。
- 地下歩行空間との連携**もしっかり考えていくべき。道路の多目的活用も含め、段階的にPPPで実現していくべきだが、サウンディング調査よりも一歩進めたような仕掛けが必要ではないか。勉強会レベルでも構わないが、実際にシミュレーションを行ってお金として成り立つのか、企業はそれでやっていけるのか、そういうことも方法論としては重要。

## 28) 西13丁目（資料館敷地）について

- 昔から課題の一つは、西13丁目が大通公園ではないこと。一般市民は誰もが大通公園だと思っている。教育委員会の直営管理から指定管理になった段階で管理レベルが非常に落ち、荒れ放題。市民は疑問に思っている。教育委員会の所管でもよいが、**施設整備や維持管理は大通公園と一体で行うべき**。
- 資料館について、民間との連携を考えたときに、公園側に対してのインセンティブは、管理の質を下げないためにお金でも良い。管理レベルを公園と同じようにするにはお金がかなりかかる。教育委員会では担保できないのなら民間で担保してもらい、何かのボーナスをあげる。そういう形で民間と共同しながら公園を維持管理すれば、現状の鬱蒼とした、裏側になっている場所は防げと思う。今後の話を考えると、行政だけがお金を使って今の大通公園の姿をキープしようとする
- と年間の支出は相当かかってくるので、その担保に対しての一つの方策。

## 29) 沿道との関係について

- 道路側につくる施設と公園、または都心交流拠点との関係をどう位置づけるか。
- 南区のむくどり公園のように、大通公園も徹底したバリアフリーへの取組をアピールできればよい。
- 国交省でもウォーカブルの取組をしている。公園に限らず、公共空間として沿道との回遊性や連携など全国でも様々な事例がある。札幌市でイメージがあればそれも共有し議論していくのが良い。
- P2のにぎわい空間の創出。今回の資料からは回遊性やハード面の課題に議論が行きがちだが、ソフト面も含め、道路空間の社会実験等の取組と一体的に、
- どういう課題が考えられるか議論した方が良い。
- 都心のまちづくり方針、はぐくみの軸強化方針でも、植栽や道路の話が出ていたが、公園内の建物も街路に背中を向けて建っているものが多い。公園の外から眺めると建物の後ろ側を見ている。テレビ塔もそういう状況で、改善の余地がある。
- 道路、公園の再配分は様々なデータを踏まえながら検討が必要**。
- 例えば駐輪場の整備など、**街路と公園の境界を外し両側から議論した方が良い**。
- 民地を考えるとときに議論になるのは道路空間。歩道の幅員が変化したことと、公園の裏を向けていることは考える必要があり、そうではない方向に整備していく必要があると思う。
- 前回までの公園利用やイベントの話もあるし、道路も色々な理由があり、流通や現状建っているビルの駐車場など、簡単に関係性は切れない。しかし、丁目ごとに長期的な方針を持ち、例えばこの丁目の北側のここは右左折禁止にして、信号が止まればどこからでも公園に入れるようにするとか。大通公園は公園としては珍しく出入口が固定化され、横断歩道部が限られた地下の入口から上がるかしかない。いくつかの丁目ではイベント時の搬入出用にしか使われていないような斜めの道路もある。**人の動きの観点だけでも、出入りが自由になるような道路の関係性を整理しても良い**。
- 今日のテーマについて、みどりの機能など、どのような機能をどこに注目して強化していくのかという話もあった。連携について皆さんのイメージも様々。人流のことなのか、車、自転車の事なのか、景観的な連続性、空間の繋がり、公園そのものの機能、周辺の街区が持っている機能などを連携させることなのか、それによっても違う。そう考えると、**多少は道路空間と公園の部分の関係を物理的なこともソフト面も含めて作り直していく**ような思い切ったことをしないと、丁目ごとにぶつ切りになっている大通公園を、周囲と連携させるのは簡単な話ではないと思う。

## 30) 沿道との関係（南北方向）について

- 公園利用者に南北の移動や沿道との移動が発生しにくい現状がある。交差点で南北の移動をして公園に入る人が多く、**公園の角の部分の繋がりから、公園と沿道との繋がりをつくる仕掛けをする必要がある**。
- 南北の道路にかかる横断歩道を渡らないと公園に入れない。これが魅力をなくしていると感じる。追加資料の昭和63年と平成28年の航空写真を比べると、西12、13丁目の交差点において、昭和63年当時はあまり高木が茂っていないくて、平成28年ではかなり茂っているのがわかる。これによって入口の空間が狭くなっている。四つ角の交差点部分は緑量を下げて低木程度にとどめ、例えば交差点を北から渡ってきたら資料館がすぐ見えるような形にするとか。交差点に広場を付けて斜めに入れるようにしても良い。狭まっている入口を広げ、周辺街区との接続性を高めるのに一番効果的なのは、大通公園の交差点の角を広くしてポケットパークにすること。全街区で行えば、相当入りやすいし中の様子もわかりやすくなる。全体の樹木量を減らさなくてもできるし、効果的な対策なのでは。

31) 沿道との関係（東西方向）について

- 東西に走る道路について、歩行者空間寄りの交通整備が考えられる区間があっても良い。精緻な分析をしないとわからない部分はあるが可能性としてはある。そうするとアーバンコアみたいな話も可能になるかもしれない。
- 大通公園のみどりは、今の領域だけ見ると狭く、空間的にも少ない。そう考えると東西に伸ばしていくことも重要。ゆくゆくは車線をつぶして公園領域を広げることも必要。現状の道路は交通事故が起こることもあり、良い歩行空間でもない。一車線にしても良いのでは。
- 公園と沿道が連携したにぎわい空間の創出について。沿道の機能や建物の駐車場及び出入口が大通公園側にあることを考えると、将来的には、道路を活用した歩行者用の空間を創出すること希望する。既に実証実験で歩道を活用した様々な取組を行っているが、例えば毎週日曜日は、公園の両サイドの道路を活用して歩行者専用の場を作る。その時々の設定では毎度調べる必要があるが、市民が毎週必ず行ける場になると市民は非常に利用しやすい。
- 昭和63年から変化したのは交通量。創成川の連続アンダーパスを考えようとした時に、都心へ入ってくる交通量が多く、通過交通に使用することは当時できなかったが、現在は交通が減っている。**歩道部分だけではなく、車道も含めた全体の再配分につなげていくことを考えても良い。**例えば3ブロックほどで日曜に歩行者天国をする等、車道と歩道の区分けだけでなく、車道が限りなく歩道寄りになる、共存道のような区間がどこかにあってもよいという話が出てくる可能性もある。
- 道路と公園の再配分について。交通量は、今の片側3車線の道路が十分なのか見極めが必要。
- 左端を空間再配分として歩行者側に明け渡し、イベント等を行うのが一般的だが、ここでは道路の右側、公園の左側を再配分して、そこを例えば自転車空間に明け渡すことも考えられる。相当難しいとは思うが、大きな目的である公園と沿道の一体化を考えたときに、右側車線を自転車や新しい交通システムに明け渡し、かつ公園の設えも久屋大通公園のように中が見通せる区間をつくることも考えると、可能性はある。前提として、車道が2車線でも十分に見極めは必要。そういう議論をしながら展開していく上では自転車用の交通も忘れてはいけない。

32) 公園側歩道部について

- 公園外縁部の歩道（公園側歩道部）は自転車の駐輪を呼び寄せているような形になっていないか。
- 南北への回遊性の拡大について、現状では公園両サイドが道路なので、子供の保護者にとっては危険を感じるつくり。逆に南北両サイドの道路をなくし、周辺の建物に子供の遊び関連の商業施設があれば、公園でも遊べるし、他の要素にもアクセスできるという夢のあるプランも考えられる。
- 今年は駐輪の取り締まりを積極的行ったこともあり、空いた歩道に結構な人が歩いていた。駐輪の対策によっては歩道として利用されるようになる。
- 公園敷地と隣接した歩道部分の活用について、渋谷の宮下公園では、ステンレスのパイプに寄りかかって体を休められるような設備があり、十分休憩できると実感したので、大通公園でも現状のベンチとは違う形の休憩施設を整備してもよい。
- 公園側歩道部について、ここを歩道と認識している人は少なく、デッドスペースになっている。**こういうところで喫煙やポイ捨てがあるのでは。ここを積極的に利用する人も恐らくあまりいない。自転車が置かれている場所は、人通りがない場所。マイナスの空間になりつつある。歩道の作り方にも課題があり、時間をかけて検討していく余地がある。
- 公園の樹木の下も昔は芝生を張っていたが、今は裸地になっており、雨も浸透しない。今は歩道扱いだが、例えば中央分離帯の位置づけとして、道路と公園部分を一体化して緑化すれば、乱横断して公園に入ることや、駐輪や路駐もできなくなる。すべての区間でなくても、部分的に緑地帯として一体的に管理すれば、見た目もよく、雨水が地中へ浸透することで少しでも都心のクールダウンに役立つ。この歩道については、道路部局との協議でぜひこのような形でやってほしい。
- P4の歩道は昔から課題。照明柱やR H盤などの障害物があるため車いすも通れず、歩道空間として残していく意味がほとんどない。

33) 移動手段について

- はぐくみの軸になっているので、札幌にとっては**移動の軸としても大通公園は重要**。移動というのは自動車、地下鉄、自転車での移動も多く、将来的には電動キックボードなども考えられる。ここは自転車移動にとっても意味のある地区であり、それをどう再配分していくかが大事。
- ウォーカブルゾーンをつくらうという話があるが、その場所に行くまでは必ずしもウォーカブルでなくてもよい。**あらゆる交通手段で行きやすくしないと、人口減少の中で賑わいを作ることは難しい。そういう意味でも、車でも大通公園に行きやすくする必要はある。
- 最近、電動キックボードなど電動化されたモビリティが使われている。公園内では配慮する動きになると思うが、園内を回遊するのに観光客には良いコンテンツ。
- 今歩道としての機能が失われている道路を、キックボードが通れる場所に改修するのもよい。

34) その他

- 議論の対象範囲はどこまでか。テレビ塔と資料館は範囲外だが、西13丁目の子供の利用が多い場所。公園沿いの歩道も、駐輪が多く歩道機能が失われている。今回そういうところも議論に含まれるのか。
- 遠方からの来訪者が少ない印象もある。そのような方々向けに使い方をPRするのも良い。
- 団体で名所を見る観光は減少し、**地域らしさやライフスタイルの享受が求められている**。従来の都市や観光のあり方とは違う進め方ができれば皆さんの意見を包含できるのでは。
- 89年と現在のゾーニングには変化があり、**コロナ禍にはイベントではなく 普段利用としての価値や意味が再確認された**。子供向けの区画だけでなく西12丁目の花壇も実は利用度が高く、89年と大きく異なる部分。
- R3、R4年にアンケート調査が行われた。コロナでイベントがなかった時期で、大通公園は広々としており綺麗だった。通常時とイベントが切れ目なく続く状態は、感覚が全く異なることを加味すべき。

大通公園におけるイベントの特徴や来訪者の傾向などイベントに関する現状把握を行うため、イベント主催者や旅行事業者、宿泊事業者など5団体にヒアリングを実施した。

### 大通公園の魅力・特徴について

高い開放性や回遊性、みどりのある空間や札幌らしい景観を有しているほか、公園利用者や出店者にとっても使い方に魅力があるとの印象であった。

- 大通公園は開けていて、周囲に回遊しやすいのが魅力。また、複数のブロックで大通公園と括られており、一体感があるのは他の場所と違う。
- 大通公園の良いところは、これだけの都心部に圧倒的な空間とみどりが有するという非日常感であり、札幌を象徴する景観のひとつにもなっている。
- 札幌のイベントといえば大通という印象になっていると感じる。イベント事業者からいつか大通に出店したいという声もあり、ブランドになっている。
- 大通公園は、東京の都心とは異なり、人によって使い方に幅を持たせることが良いポイントだと考える。例えば、運動ができる、くつろぐことができるなど違う選択肢を提供できる場所であること。
- 出店者側としては、倉庫・搬入といった自由度がないが、それでも大きなイベントなので、出店する魅力はある。
- 市民利用と観光利用の両立に向けては、利用者によりゾーン分けする手法や、公園ごとに性格を分ける手法もある。

### 来訪者の傾向について

イベント時は市民・道内利用者が7～8割を占め、ツアーでは観光時間の合間に過ごす傾向が高いもよう。

- イベント来場者の7～8割が市民。道外の人にどうやって大通公園の魅力を伝えるかが課題。
- 札幌市内宿泊客の6割は道内利用者である。それを考えても、道民がわざわざ大通公園に行くことはなかなかない。訪日観光客は全体の2～3割である。夏は、避暑地として道外の国内観光客が多く、冬は雪などを求める海外客が多くなる。
- 大通公園の強みは、その周辺にホテルが位置しており、観光客が集まりやすい立地をもつところだと考える。ツアーの一環として訪れるというより、観光回遊のバッファの時間を過ごす場として活用されるケースが多い。個人旅行の場合は、道内にコンテンツが豊富であり、訪れる人が多い印象はない。
- 3月～5月、10月後半～11月の5ヶ月間くらいが閑散期である。日本には過去最高数の外国人が来ているが、札幌に来てもらう素材が弱い。大通公園を使って何か仕掛けられると良い。
- テレビ塔や時計台はあくまで立ち寄る場所で、そこを目的に札幌に泊まりに来ている訳ではない。
- 周辺住民が増え、平日昼間のイベント来場者も増えている。

### イベント空間に求める設えについて

空間の使いやすさを求める声や、仮設撤去・設置の効率化などに関する意見があった。

- スペースとして広がりがあり、使い勝手が良いことが重要である。
- イベントのたびに、プレハブ仮設置・撤去を繰り返すのが経済的かは分からない。催事をやって良いゾーンを分け、資材保管場所を常設出来れば、仮設人工や搬入に係るCO2が減り、まちにも優しいイベントのあり方のひとつとなるかもしれない。
- 出店ブースには調理スペースしかないので、食材等の保管場所がない。出店者は自分の店とピストン輸送するなどして対応している。
- イベント開催前の仮設期間は少しでも短縮出来た方が良い。そのためには、給排水・電源等のインフラがある程度整備されていると望ましい。
- 一般動線と切り離された搬出入専用の荷捌きスペースが欲しい。
- 3,4丁目は、樹林帯の日陰にベンチがあって非常に良い。イベント利用で溢れた人も利用出来る。
- 6丁目のステージは、南北の通行動線をまたいでお客さんがいるので使いづらい。改修することがあれば東西方向に設置して欲しい。
- インフォメーション、トイレ、給排水、電源等はイベントの度に引き回ししている。そういった設備が整備された区画があっても良い。
- 給排水も場所が決まっているので、イベント企画に制約が出ている。もう少し自由度が出れば嬉しい。
- 公園の真ん中エリアでは、噴水を避けて造作設置している。園路の使い方の工夫なのか、新しい収益を生む装置が出来れば、美化や管理にかかる費用を削減して設備投資に活用することが出来るかもしれない。
- ハード面について、4-6丁目は木や芝生といった植栽等があって、倉庫やスタッフの休憩所といったバックヤードの配置が難しい。これらの丁目では、出店者に我慢してもらっている側面がある。特に6丁目などで工夫が出来ると有難い。
- 席数が如実に売上げに影響するため、芝生部分でも席をとれると良いが、芝生部分が暗くて入れるか分からなかったと言われたこともある。
- イベントを開催していても、9丁目は埋めづらい。埋まらないところは公園ゾーンとして位置付け、イベントゾーンと切り分けて整備するなど、都心部の公園だからこそできる公園を突き詰めるのはどうか。
- 通路部分について現状はスペースも狭い。通路を広げて向かい合って店を置くような事が出来れば、イベント展開も考えられる。

### イベント運営のあり方について

公園の維持管理とイベントの融合、イベントの収益を公園の施設整備に還元する方法、宿泊者へのインセンティブ等の設定といった意見があった。

- 公園維持管理とイベントで事業を分けるのではなく、融合するという発想で持続可能な循環する大通公園活用の枠組みが出来るとはではないか。
- 観光と市民利用の両立として、例えば、市民は優先的に、廉価で利用出来る等インセンティブを設けて区分するやり方もある。また、イベントで得た利益を公園施設リニューアル等で市民に還元するなど、循環が実感出来れば許容されることもあるかもしれない。
- 大通公園のイベントを宿泊客に周知することは意識しているが、連携出来るイベントは少ない。宿泊者へのインセンティブ等が設定出来ると良い。
- 出店料との兼ね合いだとは思うが、昔よりもイベント開催期間が延びて来おり、間延びしている印象はある。
- 様々な事業者が出店すると多様性はあるが、景観上まち全体としての見え方は統一感がなくなる。基本となる方向性を定めておけば、統一感を出せるかもしれない。
- イベント来場者が多く、会場が手狭な状況にある。現状は許可されない入場料での規制や人数のコントロールなどを通じて収益改善につなげたい。
- 3,4丁目が大通公園の真ん中なので、都市機能として情報発信機能を整備出来ると良い。広告収入を公園の維持管理費に還元するといった手法も考えられる。

### イベントのあり方について

対象を選ばないマジョリティ向けのイベントが合っているとの意見がある一方、観光客向けのイベントなのか市民向けのイベントなのか曖昧であるとする意見もあった。

- 市民のための公園の中でイベント開催という形になっており、観光客向けのイベントなのか市民向けなのかどっちつかずの印象がある。イベントの考え方や発信の仕方を整理する必要があるのではないか。
- テーマ性の高いイベント開催も考えられるが、財源の問題があり、全体収支の中で検討する必要がある。
- 大通公園ではマイノリティ向けよりもマジョリティに向けたイベント開催の方が合っていると感じる。他のイベントと異なりターゲットを絞らない考え方であるが、それも魅力の一つかもしれない。
- イベント期間中のタイムゾーニングは、発想としては良いが、造作の設置撤去等にかかる手間やコスト面等から現実的でないと感じる。
- イベントはコンテンツ力が重要で、定番化するには5年程度かかる。
- 市民にイベントへのアンケートを取っても、あまり不満は出ていない。

### 観光客の求めるコンテンツについて

アジア系は買い物や食事、EUは花壇ツアーなどが観光コンテンツとして優れているとの意見があった。また、日常的な地域の文化に触れる機会は外国の方に喜ばれる傾向があるとの意見もあった。

- 大通公園そのものが観光の目的になるかというと、雪まつり以外はそうっていない。年間通してイベントや楽しめるものがあると認知されれば、それを目的に観光地となるかもしれないが、大通公園を目的に札幌を訪れてもらうのはなかなか難しい。
- コンテンツで言うと、アジア系は買い物や食事、アイスクリームなどである。欧米人は、なかなか特定できないが、地元の骨董市やフリーマーケットなどの地域の暮らしに紐づいたもの。
- 観光客として夜の遊びが足りない。現状はすすきのノ狸小路に流れるが、言葉の壁もあって楽しみづらい。
- 食べ歩きは親和性が高く、食材を通じた北海道らしさが出せるので、各イベント開催時に観光することはよくある。イベント開催がない場合、とうきびワゴンは人気である。
- 海外の観光客は花壇コンテストであることを認知していない。ただ、EUは花壇ツアーがあるくらい観光コンテンツとしては優れている素材。
- 観光客が行きやすいイベントについて、受入れ側が慣れていないという課題はあるが、場数を踏むことで改善すると考えている。多言語対応等の情報発信が充実していないところは直していきたい。
- ラジオ体操や夏祭りの盆踊り大会、日常的な地域の文化に触れる機会は外国の方に喜ばれる傾向がある。
- 大通公園の一部を企業のために場所を貸し出すことはできないか。企業の団体ツアーで札幌に来たとき、公園の一角を使ってチームビルディングなどの研修として活用するコンテンツの需要がある。来れしした際に、札幌ならではの経験ができると良いと思う。
- 街中に雪に触れる体験が出来る場があると良い。雪合戦・雪だるま作りなど、日常的なコンテンツでもチームビルディングの一環としてのニーズが高い。
- 欧米や日本の個人客は、体を動かすことに需要があるようなので、大通公園内の運動コンテンツを増やしたらどうか。
- 例えば、ハワイで走っているようなトロリーバスを走らせて園内移動に自由度を持たせることで、回遊性を促すことは考えられる。

### 沿道との連携について

座席数、会場を広げる観点から期間限定でも道路空間の利用を期待する意見があった。

- 道路空間の利用について、期間限定でも出来ると面白い。観光利用に限らず、ウォーキング等にも活用出来そうである。
- 歩行者天国に出来るなら、イベント目線では、座席数を増やせば魅力度が上がる。また、銀座の歩行者天国のように、今まで見たことのない風景を創出出来ると、市民にも喜んでもらえるかもしれない。
- 歩行者天国を期間限定で設けるのは面白そうだ。札幌駅前通の大通以南で休日に歩行者天国を設ける実証実験を行っていたことがあるが、そのようなことが少しずつ出来ると良いのではないか。
- 道路（大通）での開催でも大通公園のイベントという整理は出来そうである。むしろ斬新で面白いかもしれない。お店を通路に置いて飲食スペースは公園に置くイメージだと、会場が広がるので良さそうである。
- 沿道よりも公園内にカフェがあるほうが効果的だと考える。冬は、雪がありテラス席利用が難しい。また、大通公園との間には車道があるので、沿道からみどりを楽しむことは難しい。沿道から楽しむならば、建物の2階か3階で見下ろすことでどうか。

### 民間との連携について

場所や業態によりイベントの波及効果が異なるとの意見があった。

- 周辺ビルとの連携は場所による。数ブロック先では活用が出来ない。また、搬入経路の問題もある。
- 管理について、民間委託を行うと、民間ならではのアイデアが出て公園の活性化に寄与している。
- 中島公園は、地域活動の拠点となっている。大通公園もそのような活動が十分出来るエリアであり、民間レベルで活動を行えば、より魅力を伝えられるのではないか。
- せっかく複数の企業や団体が活動しているなら、そういった団体を組織化すれば良いのでは。
- イベント開催時には大通公園を核としたシャワー効果を期待しているが、周辺店舗にもコンテンツ力が求められるため、イベント来場者同等の波及効果が、必ずあるわけではない。
- 大阪城公園は、実証実験を行うトライアウトの場にもなっている。そのような活用も出来るのではないか。
- 大通公園で今やっているイベントを狸小路やアカブラに移して分散するというのは難しい。

### 環境配慮・SDGsについて

環境配慮やSDG s への配慮はイベントや大通公園自体にも必要であるとの意見があった。

- SDGsやDXの観点から太陽光発電の活用等も試行している。
- イベントの環境配慮について、2050年までにゼロカーボンを目指すというのも聞いており、カーボンオフセットの仕組みを明確化していきたいという気持ちはある。
- 大通公園内のSDGsの工夫があれば、教育旅行のコンテンツとして使える。例えばモエリ沼公園では、雪冷房システムを紹介することで修学旅行のコンテンツになっている。レインボーパレードなども、修学旅行には人気のコンテンツ。

## 背景と目的

大通公園では、周辺に保育施設が増加するなど、近年、芝生広場などで子どもたちの遊ぶ姿が頻繁にみられ、市民からも今後に期待することとして「子どもと遊べる遊具が各所に増えてほしい」などの声が寄せられていた。

また、国は新型コロナウイルス感染症の拡大を契機とした新たな社会への対応や人口減少・少子高齢化への対応等、社会状況の変化を踏まえた新たな公園のあり方をとりまとめており、この新たな時代の公園を実現するにあたり、具体的な取組の一つとして、デジタル技術の利活用への注力を位置付けている。

## 実施概要

### （1）概要

|       |                                                                                 |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時   | 2023年11月11日（土）～12月3日（日）9時～16時 ※23日間                                             |
| 場 所   | 大通公園西10丁目芝生地                                                                    |
| 主催／共催 | 主催）株式会社コトブキ 共催）株式会社フロウプラトウ                                                      |
| 取組テーマ | デジクルーシブパーク                                                                      |
| 詳 細   | これまでの遊具とは違い、遊具自体が動くことが特徴。振動や光などを発生する遊具を子どもが五感を駆使して遊ぶ。これまでにない新たな遊びの形を生み出す実験的な試み。 |

### （2）導入施設

シャボンタワー



枝のような突起部分からシャボン玉が次々に発生する遊具。

ライトハント



ポールの先端に取り付けられたミラーに反射した太陽光を追いかける遊具。

ブルブルブロック



三角形のクッションブロックが震える遊具。



## 調査手法

日頃は芝生広場として活用している大通公園西10丁目に、これまでにない遊具を設置し、「**遊びの機能の充実について**」検証するため、利用者数調査およびアンケート調査を行った。

### （1）利用者数調査

- ✓ 平日・休日に分けて、9時～16時の稼働時間中の利用人数・利用者構成を把握
- ✓ 平日は11月20日(月)～11月22日(水)の3日間実施
- ✓ 休日は11月11日(土)、11月12日(日)の2日間実施

### （2）アンケート調査

- ✓ 11月20日(月)～11月22日(水)の3日間に実証実験エリアを利用する方が対象
- ✓ 大通公園の利用頻度や居住地、公園内の遊び場の充足度等について聞き取りを実施

## 調査結果

### （1）利用者数調査

休日は大人と子どもの数がおおむね同数で、昼前から夕方にかけて利用が多く見られた。平日は午前中の利用が多く、特に保育施設が利用する10時台の利用がもっとも多かった。

|                 | 11/11（土） |     |     | 11/12（日） |     |     | 11/20（月） |      |     | 11/21（火） |     |     | 11/22（水） |     |     |
|-----------------|----------|-----|-----|----------|-----|-----|----------|------|-----|----------|-----|-----|----------|-----|-----|
|                 | 大人       | 子ども | 合計  | 大人       | 子ども | 合計  | 大人       | 子ども  | 合計  | 大人       | 子ども | 合計  | 大人       | 子ども | 合計  |
| 午前（9:00～12:59）  | 39       | 42  | 81  | 54       | 51  | 105 | 41       | 94   | 135 | 52       | 82  | 134 | 35       | 79  | 114 |
| 午後（13:00～16:00） | 33       | 51  | 84  | 23       | 20  | 43  | 0        | 天候不良 | 0   | 16       | 13  | 29  | 28       | 41  | 69  |
| 合計              | 72       | 93  | 165 | 77       | 71  | 148 | 41       | 94   | 135 | 68       | 95  | 163 | 63       | 120 | 183 |

### （2）アンケート調査

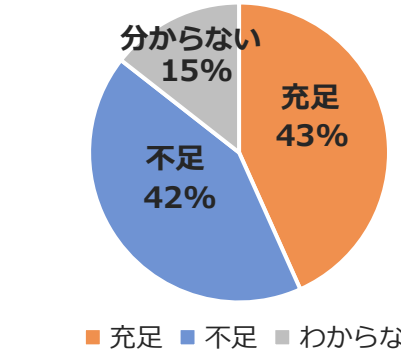
3日間合計で107件の回答を得られた（20日：17件 / 21日：41件 / 22日：49件）。

#### 1）回答者の属性

- ✓ 大人のみは7組、子ども1～4名は84組、子ども5名以上は16組の利用者が回答
- ✓ 週1回以上が45%（N=48）、月1回以上を含めると78%（N=83）の頻度で利用

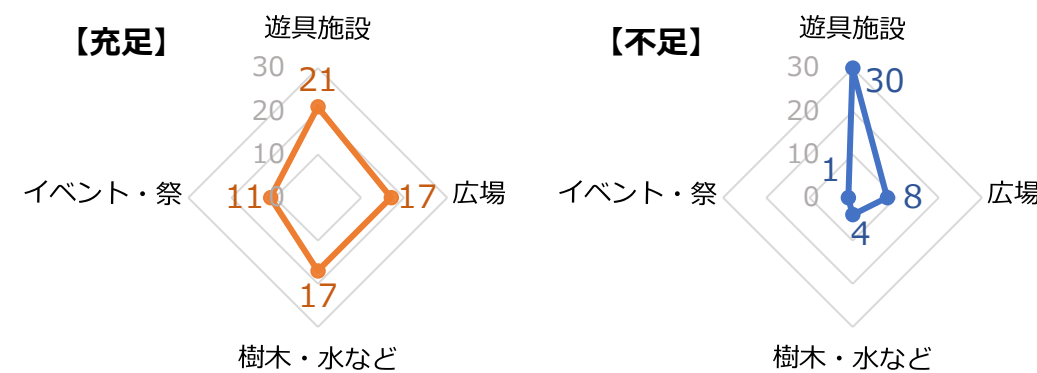
#### 2）遊び場の充足度

充足、不足と感じる人は同程度であった



#### 3）充足・不足と感じた要素は何か（複数回答可）

充足と答えた人は項目間の回答の偏りが少なかったが、不足と答えた人の回答は遊具に偏っていた



### 調査結果のまとめ

- ・ 実験期間が初冬期であり寒い日も多かったが、多くの市民に利用いただき、会場は賑わっていた。
- ・ 休日は昼頃から家族連れの利用が、平日は午前中に近隣の保育園児の利用が多かった。
- ・ 遊び場が充足していると回答した人は、遊具施設だけではなく、走り回れる広場や水遊び場なども含めて充足と感じている傾向があった。
- ・ 遊び場が不足していると回答した人は、遊具施設の不足を挙げる傾向にあった。

## 考察

- ▶ 平日の保育園児や休日の家族連れなど、多くの子どもが大通公園を訪れており、大通公園における子どもの遊び場は、重要な公園機能のひとつである。
- ▶ 特に、都心部の保育施設では屋外園庭スペースが少ないことから、未就学児の遊び場としての大通公園の活用をさらに促進していくべきである。
- ▶ 広場や水遊び場などの遊具以外の施設は、利用者に与える充足感も高く、遊びを構成する重要な要素であるため、都心に位置し豊かなみどりが求められる大通公園では、芝生広場や築山、水遊び場、樹木など、様々な要素で遊びの空間を構成するのが望ましい。
- ▶ 一方で遊具の需要も多く、遊具には「揺れる」「ぶら下がる」などの遊びの機能を集約化して提供できる利点もあるので、限られた面積内で遊び場機能を充実させるために、遊具の設置も効果的である。
- ▶ また、これまでの検討会の議論を踏まえて、大通公園は都心のパブリックスペースとして重要な役割を持っていると言えることができるため、設置する遊具や施設についても、景観に配慮した質の高いデザイン性や快適性が求められる。
- ▶ 大通公園は、幅広い利用者層と話題性から、「遊び」をはじめとした先進的な取組の試行の場として、その活用を検討していきたい。

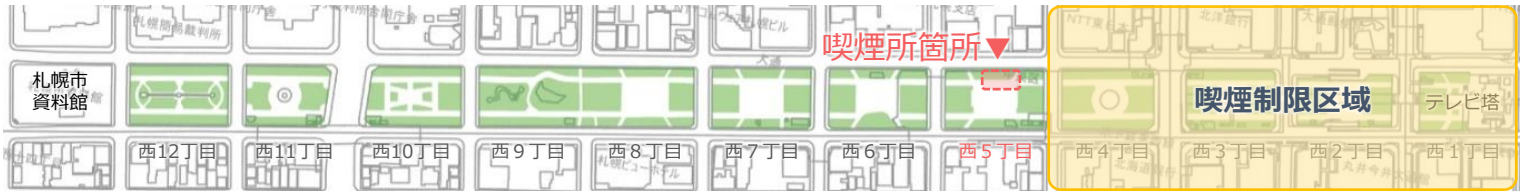
背景と目的

喫煙者が日常的に大通公園の一角に集まって喫煙している現状や、それに伴う苦情が発生していることを踏まえ、望まない受動喫煙対策への取組推進や、吸う人と吸わない人の双方にとって公園の利用環境が向上するか検証するため、大通公園西5丁目に喫煙所を設置した。

実施概要

(1) 取組概要

|      |                                                   |
|------|---------------------------------------------------|
| 利用開始 | 2023年12月4日（月）～                                    |
| 場 所  | 大通公園西5丁目北側                                        |
| 協力企業 | 日本たばこ産業株式会社                                       |
| 施設規模 | 面積約20㎡、高さ2.4m                                     |
| 詳 細  | 公園内に喫煙所を設置し、吸う人・吸わない人の住み分けを行うことで、双方の快適性の向上を目指す試み。 |





喫煙環境の実証実験の様子

調査手法

喫煙所の設置に伴う「**大通公園（西5丁目）の過ごしやすさ等について**」把握するため、以下の調査を行った。

(1) 喫煙者数調査

- 喫煙所の設置前後における路上喫煙の状況を把握するため、公園内の喫煙者の人数を計測した。
- ✓ 調査日時は、設置前は令和5年11月28日(火)・30日(木)、設置後は令和5年12月12日(火)・14日(木)と令和6年5月8日(水)・9日(木)の各平日2日間で、12:30～13:00と15:00～15:30の1日2回計測
  - ✓ 場所は、大通公園西5～7丁目の公園内（設置後は喫煙所内も計測）
  - ✓ 公園内における喫煙者の人数を計測

(2) アンケート調査

- 喫煙所の設置に伴う公園の過ごしやすさ等を把握するため、公園利用者・喫煙所利用者にアンケートを実施した。
- ✓ 調査日時は、平日は5月7日(火)～9日(木)の3日間（5月7日は雨天により1時間で中止）、休日は5月5日(日)、11日(土)の2日間で、10時～16時の時間帯で実施
  - ✓ 場所は、大通公園西4～6丁目（公園利用者）及び西5丁目喫煙所（喫煙所利用者）
  - ✓ 大通公園での過ごしやすさや利用頻度、活動拠点の有無などについてヒアリング

調査結果

(1) 喫煙者数調査結果

| 12:30～13:00 | 西5 | 喫煙所 | 西6 | 西7 | 15:00～15:30 | 西5 | 喫煙所 | 西6 | 西7 |                                     |
|-------------|----|-----|----|----|-------------|----|-----|----|----|-------------------------------------|
| 設置前11月      | 31 | -   | 1  | 24 | 設置前11月      | 21 | -   | 1  | 3  | ✓ 西5丁目における路上喫煙者数は減少（喫煙所に移動）         |
| 設置後12月      | 16 | 29  | 7  | 20 | 設置後12月      | 1  | 14  | 2  | 7  | ✓ 利用者の多い昼（12:30～13:00）は西5丁目でも路上喫煙あり |
| 設置後5月       | 17 | 34  | 9  | 38 | 設置後5月       | 1  | 9   | 3  | 0  | ✓ 西6,7丁目における路上喫煙者数に減少傾向は見られず        |

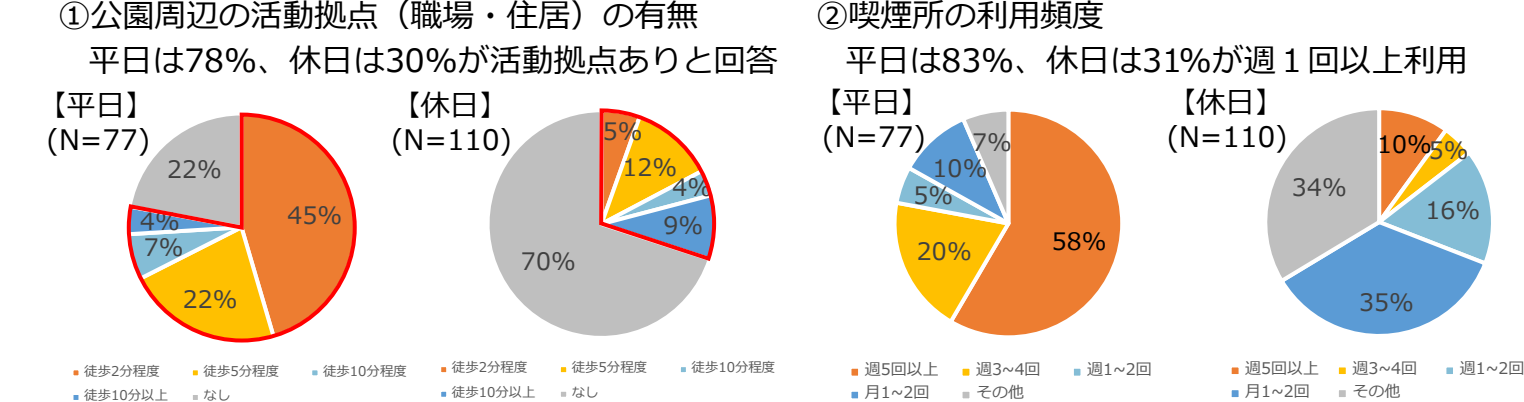
(2) アンケート調査結果

5日間で合計845件の回答が得られた（公園利用者 658件／喫煙所利用者 187件）。

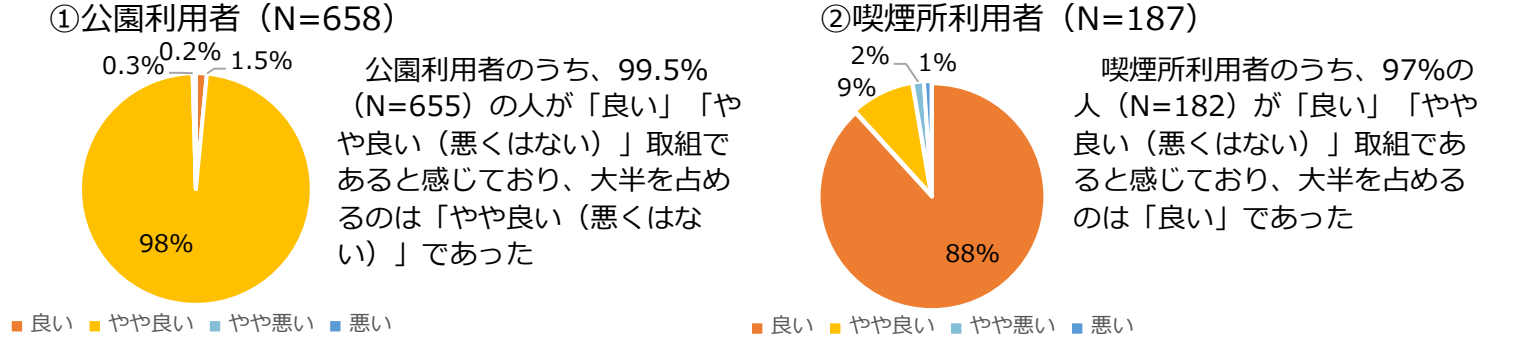
1) 回答者の属性

- ①公園利用者 ✓ 男女比は1：1（N=294、321）  
✓ 20代～70代が概ね満遍なく回答  
✓ 8割以上は非喫煙者（N=560）
- ②喫煙所利用者 ✓ 男女比は3：1（N=125、48）  
✓ 回答者の7割近くが30～50代

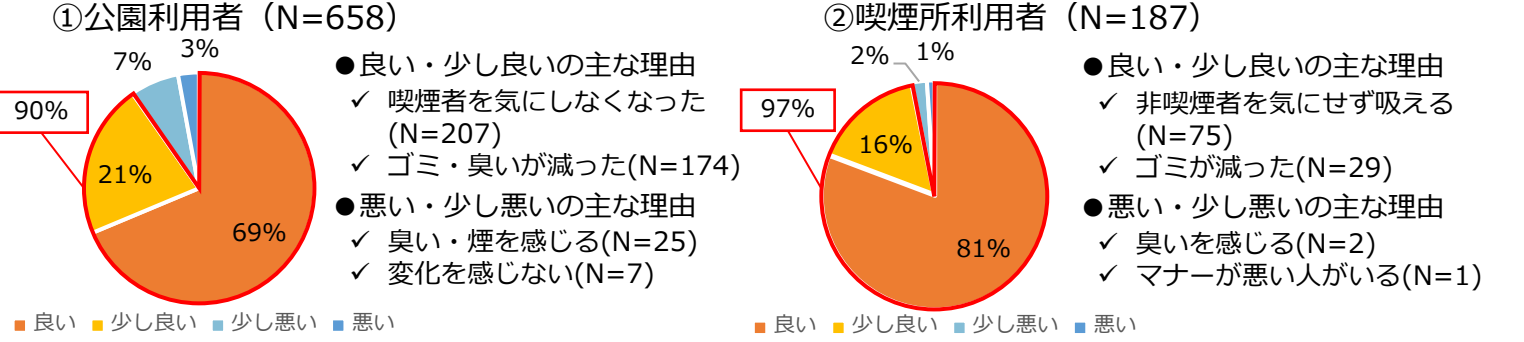
2) 喫煙所利用者の傾向



3) 吸う人・吸わない人を住み分ける取組に対する是非



4) 喫煙所設置による公園の過ごしやすさの変化



**調査結果のまとめ**

- ・喫煙者数調査を行ったいずれの日時においても、喫煙所は利用されており、一定の需要があることが確認できた。
- ・15:00～15:30の時間帯においては、西5丁目での路上喫煙者は減少したが、西6,7丁目での路上喫煙者は減少傾向が見られなかった。
- ・12:30～13:00の時間帯においては、西6,7丁目だけでなく、西5丁目でも路上喫煙者が見られた。
- ・平日は近隣に活動拠点がある人の喫煙所利用が多く、利用頻度も高い傾向にあった。
- ・吸う人・吸わない人を住み分ける取組そのものは、ほぼ全ての人が良い取組であると感じていた。
- ・公園・喫煙所利用者ともに90%以上の人が喫煙所設置後は過ごしやすくなったと感じていた。
- ・その一方で、喫煙所の衝立越しでも臭いや煙を感じている人も見受けられた。

今後の予定

▶ 本取組については引き続き利用状況を観察することとし、喫煙所の設置が公園の利用環境の向上に資する取組か、見極めを行いたい。

## 大通公園のあり方：New Inclusive Odori Park

大通公園は、防火帯から逍遙地、市民のいこいの場として変遷し、変化し続けてきた社会ニーズを幅広く受け止める場として今日に至る。

札幌都心の南北を区分するまちづくりの基軸から、街区・道路・公園が一体となる空間を目指し、社会が複雑化・高度化する中で、多様な価値感を受け入れ、互いに尊重し合う、これからの時代に相応しい札幌市の象徴空間とする。

### 「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」に掲げるまちづくりの重要概念

#### ユニバーサル（共生）

▶誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会

#### ウェルネス（健康）

▶誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会

#### スマート（快適・先端）

▶誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会

### 大通及びその沿道に係る方向性

#### 「大通及びその周辺のまちづくり方針-札幌都心はぐくみの軸強化方針-」

《はぐくみの軸のまちづくりの理念》

象徴性の継承と新たな価値の創造

～150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”～

#### 「札幌市都心のみどりづくり方針」

《大通重点エリアの方向性》

都心の発展に向け大通のさらなる魅力と機能の向上に資するみどりづくり

これまでの検討や上位計画・社会潮流等を踏まえて、これからのあり方を支える10のキーワードを抽出した上で両義性を持った5つの柱となる考え方を設定した。

- 札幌を象徴するセントラルパークでもある。
- 区画ごとに歴史的な経緯も異なるので、それをどう継承するかも大事。
- シビックプライドを醸成し、さらに都市や地域としてのブランディングを進めることに繋がっていくという位置づけが出来れば良い。
- 銅像や碑の維持もお金はかかる。撤去に際しては議論を呼ぶと思うが必要に応じて考えていくべき。
- 水の施設は市民の方々の親しみもあり、ある程度必要だが、現状を維持していくべきは検討が必要。

- 多様化するニーズへ柔軟に対応できるものを、民間事業者との連携や周辺のまちづくりの話も見越して考えるべき。
- 子供連れの利用を充実させる方向で検討してほしい。
- 日常利用側の視点で、どれだけ利用できる時間帯や空間があるかという見方も必要。
- 団体で名所を見る観光は減少し、地域らしさやライフスタイルの享受が求められている。
- 日常的な地域の文化に触れる機会は外国の方に喜ばれる傾向がある。
- 未就学児の遊び場としての大通公園の活用をさらに促進していくべきである。

- 視点を明確に示して健全な緑を育成するということに思い切って踏み込んでほしい。
- 樹木については、景観的な部分、沿道との連携も含めて議論を行っていききたい。
- 本来想定していた沿道との一体感が逆に分断要素になっている側面がある。
- 大通の花のボランティア活動のレベルは高く、新参者もあり、これからも十分期待できる。
- 欧米では、花壇は優れた観光コンテンツである。

- 空間利用、マネジメントについて、大通公園の位置づけや方向性が重要。ゾーニングを細かく区切ることで様々なニーズに応えているが、一方で小さな公園の集まりのように見えてしまう恐れもある。
- 都心に関する他の計画と連動させ、公園の範疇を超えて考えるのは絶対条件。
- 沿道、札幌駅前通、北三条広場も含めた空間利用を考え、大通公園のあり方を決めることが重要。
- 西13丁目について、施設整備や維持管理は大通公園と一体で行うべき。
- 時計台や公園東側への大通公園への連続性も是非検討頂きたい。

- マネジメントの問題も議論が必要。誰がどのような方法で行うのか。
- 公園内だけでなく道路もパークマネジメントの領域に入れて、イベント利用や保守管理を含めて費用を捻出していく方法もある。
- 大通公園に隣接している敷地を再開発した場合、どのようなメリットを公園側に与え、どんなキックバックがあるのか。
- 受動喫煙の対策は必要だと考える。
- 90%以上の人が喫煙所設置後は過ごしやすくなったと感じている。一方で、喫煙所の衝立越しでも臭いや煙を感じている人も見受けられる。

#### 01-1 歴史性・地域性

- みどり豊かないこいの空間の継承
- 市民に親しみ・愛されてきた象徴性の継承
- 都心のオアシスである水景空間の継承
- 歴史・文化を象徴する野外彫刻などの継承



#### 02-1 生活の場（日常）

- みどり豊かな空間の中で、日常的に大人から子どもまでが思い思いに過ごせる空間の創出
- 年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず使いやすい空間の整備



#### 03-1 都市の中心にあるみどり

- 中長期的な視点で樹木の健全化を図り、都心部の豊かで良好なみどり空間の維持・向上
- 芝生や花壇に一層親しむことのできる環境や、みどりを身近に感じられる機会を促進



#### 04-1 連続した軸としての一体性

- 大倉山、テレビ塔への眺望を踏まえた景観軸の確保
- 大通公園西側、創成東地区、時計台への人の流れや連続性を意識した空間形成
- 街区間のつながりを持たせた空間形成や利活用方針の検討



#### 05-1 公共によるマネジメント

- 持続的な管理運営を図るため、都市公園に関わる収入の公園施設への還元を検討
- 公園の周辺ならではの開発インセンティブの検討
- 公園利用ルールの検討



## 01

### 過去と未来を重ね合わせる

大通公園が持つ歴史や文化、象徴性を継承すると共に、これからの時代に相応しい機能や空間を付加していくことで、新たな価値を創出していく

## 02

### 日常と非日常を重ね合わせる

日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出すると共に、札幌ならではのにぎわいを創出していくことで、大通公園の魅力を高めていく

## 03

### 都心のみどりとまちなみを重ね合わせる

都心の中心にある公園として質の高いみどり空間を創出すると共に、まちの回遊拠点としての役割も高めていくことで、みどりとまちなみの一体感を醸成していく

## 04

### 一体性と個性を重ね合わせる

1.5kmに及ぶ1つの公園としての一体性を保つと共に、各街区の個性や変化をより感じられる施設計画を行うことで、歩きたくなる空間を創出していく

## 05

### 公共と民間の強みを重ね合わせる

公共によるマネジメントを見直すと共に、民間事業者・市民団体の活力をこれまで以上に活かすことで、持続可能な施設整備や管理運営を達成していく

#### 01-2 将来性・国際性

- 環境配慮型の施設整備、再生可能エネルギーの活用、グリーンインフラとしての機能向上
- 国内外の人々が集い、交流を生み出す空間形成
- デジタル機能を活用した、利用者サービスの向上や管理運営の効率化



#### 02-2 発信の場（非日常）

- 多様な日常利用とイベント利用の両立を図る、最適な空間配置の検討
- 札幌らしさ、大通公園らしさを発信できる魅力的なイベントなどによる、にぎわい創出の仕組みの検討



#### 03-2 みどりと近接したまちなみ

- 都心部の回遊拠点として公園とまちをつなぎ、アクセス性・回遊性を高める環境の整備
- 大通全体のにぎわい創出や地上地下結節等に資する、公園と沿道との一体感を高める空間整備



#### 04-2 各街区の個性

- 丁目ごとの変化を感じられる、歩きたくなる空間の形成
- 沿道の土地利用や建物状況に応じた空間機能の一体性の確保
- 景観性に優れた施設の整備



#### 05-2 民間事業者・市民団体の活力

- 民間事業者や市民団体の力を活かした管理運営や施設整備の推進
- 都心の活性化に係る幅広い民間の公園活用のアイデアを受け止められる仕組みの検討



大通西4南再開発（イメージ）  
出典：大通西四丁目南地区市街地再開発準備組合

- 水を使う施設は省エネルギーの効率的なものへの交換が必要。
- グリーンインフラの機能を強化する植栽を増やすのかなど、みどりに対してのアプローチや伸ばしていきたい機能という目線での議論があっても良い。
- ITやデジタルの活用も入れると良い。
- 多言語対応等の情報発信が充実していないところは直していきたい。
- 大通公園内のSDGsの工夫があれば、教育旅行のコンテンツとして使える。
- 大通公園は、幅広い利用者層と話題性から、「遊び」をはじめとした先進的な取組の試行の場としての活用を検討したい。

- 普段使いと街の中心としての機能を、どう果たすか。
- 憩いと賑わいの両立を考えるには、大通公園の位置づけを明確にするべき。
- 札幌らしいイベントづくりにつながるマネジメントをすべき。
- 外から来た人が見たいのは市民による使われ方であり、市民活動の場としてのイベントも大事。
- イベント来場者の7～8割が市民。道外の人にどうやって大通公園の魅力を伝えるかが課題。
- イベントの考え方や発信の仕方を整理する必要がある。
- 資材保管場所を常設出来ると良い。

- 公園側歩道部について、歩道と認識している人は少なく、デッドスペースになっている。
- 街路と公園の境界を外し両側から議論した方が良い。
- 道路空間と公園の部分の関係性をハード面・ソフト面も含めて作り直していく必要がある。
- 道路、公園の再配分は様々なデータを踏まえ検討が必要。
- 公園と沿道との繋がりをつくる仕掛けが必要。
- 人の動きの観点だけでも、出入りが自由になるような道路の関係性を整理しても良い。
- はぐくみの軸になっており、移動の軸としても重要。
- 地下歩行空間との連携もしっかり考えていくべき。

- 各区画で公園周辺の土地利用や都市計画上の位置づけが異なるため、それも考慮し使われ方や位置づけを考えなくてはいけない。
- 丁目ごとに違いや特徴があると良い。
- 景観としても素晴らしい両義性をもってデザインする必要がある。
- 都心に位置する大通公園は、質の高いパブリックスペースとして重要な役割を持っているため、設置する遊具や施設についても、景観に配慮した高いデザイン性や快適性が求められる。

- 多様な利用の展開ができるよう、民間・行政間の柔軟なコミュニケーションを可能にする仕組みづくりも大事。
- 公園維持管理とイベントで事業を分けるのではなく、融合するという発想で持続可能な循環する大通公園活用の枠組みが出来るのではないかな。
- 管理について、民間委託を行うと、民間ならではのアイデアが出て公園の活性化に寄与している。

（凡例） 黒字：検討会における委員意見  
緑字：実証実験からの考察  
青字：観光関連団体からの意見の概要

第1～3回検討会における委員意見や観光関連団体へのヒアリング結果等から、場づくりに関するキーワードを抽出し、大通公園で考えられる **U X（User Experience）** を以下の通り検討した

大通公園のあり方：  
New Inclusive Odori Park

- 01 過去と未来を重ね合わせる
- 02 日常と非日常を重ね合わせる
- 03 都心のみどりとまちなみを重ね合わせる
- 04 一体性と個性を重ね合わせる
- 05 公共と民間の強みを重ね合わせる



意見1a：多様なニーズに柔軟に対応

- ミュージアムのような魅力を感じたい
- 音楽の楽しさをもっと感じたい
- 飲食施設が充実してほしい
- 視点を変えられる場所
- 一人で自由に過ごせる場所
- 同じ目的で他人と集まれる場所
- 少しの時間で楽しめる場所
- 半屋外的な少し守られた場所

意見1b：札幌を象徴するセントラルパーク

- 記憶・思い出に残る場所
- 演出された夜景

意見3：水の施設への親しみ

- 水の動きや質感をもっと感じたい

意見4：健全なみどりの育成

- 木陰の魅力をもっと感じたい
- 自然の豊かさと向き合う

意見5：景観の両義性

- 遊具っぽくない遊具
- バックヤードや騒音、環境負荷などネガティブな要素を感じたくない

意見11a：セレンディピティ

- 偶発的な出来事に会える
- 思い思いに好きな時間を好きな姿勢で過ごすことができる

意見11b：いこいとにぎわいの両立

- イベント時のイベントと関わらない過ごし方の充実
- 何かやっているものを適度な距離感で眺める
- 異なる過ごし方が共存できる
- 様々なイベント演出を一定の秩序やルールの中で楽しみたい
- 市民の暮らしの日常使いとなる居場所

意見33：園内の回遊

- 公園全体を移動しながら楽しむ
- 移動そのものを楽しめる

意見34：地域らしさ・ライフスタイルの享受

- 雪まつり以外の冬の魅力を感じたい
- 楽しみ方を教われる
- この場所ならではの演出が効いた環境の魅力が味わえる

◆多様な体験が生まれる場づくり（今回の委員意見や市民意見（オープンハウス）を踏まえて、今後ブラッシュアップを予定）

U X 1  
1.5kmの移動を楽しめる

意見1b

意見33

- 先に進みたくなるような変化やランドマークがある
- 各丁目の出入口が感じられる
- 1.5km全体を感じるビジュアルアイデンティティがある
- 先に進みたくなるような移動の選択性がある（柵ではなく地形が境界、斜め移動もできる）



U X 2  
五感に意識を向けられる

意見3

意見5

意見4

意見33

- 道路の音から離れた場所が見つかる
- (クロスモーダルな)身体を使う地形のような場所がある
- 身体を使った子供・大人の遊び場になる



U X 3  
配慮が行き届いていることが感じられる

意見1a

意見5

- ネガティブな要素を感じにくくする配慮
- 公園とそれ以外とのつながりへの配慮
- ファニチャー、ロゴ、ユニフォームなどビジュアルアイデンティティを感じられるきっかけがある



U X 4  
興味が広がるきっかけを持てる

意見1a

意見34

- 本物の文化(衣食住・心技体)に触れられる
- 多義的な過ごし方（遊具に頼らない遊び場や音楽、スポーツ等）に触れられる
- 社会実験などの新たな取組に触れられる



U X 5  
距離感の選択性が広がる

意見1a

意見11ab

- イベントへの参加度合いを選択できる
- 日常的に過ごす時間で人との距離に選択性がある（ベンチの向き、サイズ等）
- 自然（木、水）との距離に選択性がある



U X 6  
過ごし方の違いが感じられる

意見1a

意見11ab

- 少し高い場所/低い場所がある
- 色々な姿勢で過ごせる
- 公園を外から眺められる場所がある（木立の密度や視線の抜け）
- 花の場所、芝生の場所、映える場所のメリハリがある



U X 7  
時間・季節の変化が感じられる

意見1b

意見34

- 冬季や夜間でも楽しめる場所がある（ライティング等）
- 時間毎の変化が感じられる（時報のような仕掛け等）
- 植物の変化で四季が感じられる
- 雨でも長く過ごせる場所がある
- 冬のソリ移動が楽しめる



U X 8  
環境の良さを感じられる

意見1a

意見4

- 夏場のミストなどにより環境の良さを感じられる
- コンポストなど環境配慮の取組を知る環境教育の場となっている
- 参加できる環境活動がある
- 災害時にも安心できる備えが感じられる

